

Pioneer Dj

プロフェッショナルサンプラー

TORAIZ SP-16

TSP-16

取扱説明書 Version.1.60 追補

もくじ

はじめに.....	6
システムバージョンの確認方法	8
ファームウェア Ver.1.60	9
1. FX2 モジュール.....	9
1.1. LFO の対象パラメーター	9
1.2. タッチストリップにアサイン可能なパラメーター	9
2. MIDI IN チャンネル設定	10
3. MIDI OUT 出力設定.....	11
3.1. MIDI OUT/THRU 端子の出力設定	11
3.2. USB-B 端子の出力設定.....	11
4. SYNC SOURCE SELECT 設定.....	12
ファームウェア Ver.1.50	13
1. LIVE SAMPLING	13
1.1. LIVE SAMPLING 画面を開く	13
1.2. サンプリングの開始	13
1.3. サンプルの再生開始位置を調整する	14
1.4. サンプルを保存する	14
1.5. LIVE SAMPLING 画面を閉じる.....	15
2. AUDIO INPUT BPM	16
ファームウェア Ver.1.40	17
1. シーケンスの複製/消去	17
1.1. シーケンス編集画面を開く	18
2. トラックの複製/消去.....	19
2.1. トラック編集画面を開く	20
3. シーンファイルの削除	21
4. トラックの入れ替え	22
5. その他.....	23
5.1. 波形の拡大・縮小	23
5.2. トリガーの一括削除	23
5.3. 扱えるサンプル音源が最長 64 秒まで拡張.....	23

5.4.	ミュート機能	23
5.5.	ダイナミックレコーディングの UNDO.....	23
5.6.	BROWSE 画面での BACK ボタン押下時のふるまい.....	23
5.7.	フォルダー構成.....	24
5.8.	Project メニュー	24
5.9.	Dave Smith Filter の設定	24
ファームウェア Ver.1.30		25
1.	スケール設定 (SET SCALE)	25
1.1.	SET SCALE 画面を開く	27
1.2.	スケールの選択.....	27
1.3.	エリア設定.....	27
1.4.	ROOT NOTE の変更(MIDIトラック/TORAIZ AS-1 トラック時).....	28
1.5.	KEY SHIFT の変更(SAMPLE トラック時)	28
1.6.	選択 PITCH/NOTE.....	28
1.7.	TIME STRETCH の変更(SAMPLE トラック時)	28
1.8.	ルートキー/オクターブキー	28
2.	シーンファイルのエクスポート・インポート (SCENE MANAGER)	29
2.1.	シーンファイルの書き出し	29
2.2.	シーンファイルの読み込み	30
2.3.	シーンの BPM.....	30
3.	アナログフィルターセッティング (MIXER)	32
3.1.	設定.....	32
4.	新規エフェクト (FX1、MASTER/SEND FX)	33
4.1.	PHASER.....	33
4.2.	DUCKER.....	34
5.	BYPASS (TRACK MENU)	35
5.1.	BYPASS の設定.....	35
6.	バンクセレクト・プログラムチェンジ (TRACK MENU)	38
6.1.	バンクセレクトの送信.....	38
6.2.	プログラムチェンジの送信	39
7.	TORAIZ AS-1 連携用トラック属性.....	40
7.1.	プリセットの切り替え.....	40
7.2.	MIDI NOTE 設定	41
7.3.	MIDI CC 設定.....	41
8.	その他.....	42
8.1.	LFO の対象パラメーターの選択.....	42
8.2.	タッチストリップにアサイン可能なパラメーター	43

8.3.	波形の拡大・縮小	44
8.4.	SLICE モード演奏時のトリガーの打ち込み.....	44
ファームウェア Ver.1.20		45
1.	MIDI IN	45
1.1.	各種 MIDI メッセージの受信可否設定	45
1.2.	MIDI IN チャンネル設定	46
2.	MIDI OUT	47
2.1.	各種 MIDI メッセージの送信可否設定	47
2.2.	MIDI OUT チャンネル設定	48
2.3.	MIDI NOTE 設定 (MIDI NOTE、SEQUENCE)	49
2.4.	MIDI CC 設定 (MIDI CC1/CC2)	51
3.	SLICE (SET SLICE)	52
3.1.	SET SLICE 画面を開く	53
3.2.	スライスの追加.....	53
3.3.	スライスの削除.....	53
3.4.	サンプルの指定数等分割	53
3.5.	スライスの選択および位置の設定.....	53
3.6.	スライスの調整.....	54
3.7.	スライスのパフォーマンスパッドへのアサイン	54
4.	新規インサートエフェクト (FX1)	55
4.1.	MULTI MODE FILTER.....	56
4.2.	DELAY (INSERT)	57
4.3.	LO-FI.....	58
4.4.	COMPRESSOR (INSERT).....	59
4.5.	DISTORTION.....	60
5.	LFO 設定 (LFO)	61
5.1.	対象パラメーターの選択	62
5.2.	LFO 形状の選択.....	63
5.3.	LFO の詳細動作設定.....	63
5.4.	LFO の各種パラメーター設定	64
6.	新規マスター/SENDエフェクト (MASTER/SEND FX)	65
6.1.	COMPRESSOR (MASTER/SEND).....	66
7.	オーディオレンダリング (RENDER AUDIO)	67
7.1.	レンダリング対象の選択	67
7.2.	レンダリングモードの選択	68
7.3.	残響処理方法の選択	68
7.4.	保存先の選択	68

7.5. オーディオレンダリングの実行	69
8. アレンジメント (ARRANGER)	70
9. その他.....	71
ファームウェア Ver.1.10	72
1. PRO DJ LINK (BPM/QUANTIZE, UTILITY)	72
1.1. PRO DJ LINK によるシーケンスのシンク	73
1.2. PRO DJ LINK 設定	73
2. プロジェクト関連機能 (PROJECT)	75
2.1. プロジェクトのパッケージ化.....	75
2.2. 他のプロジェクトへのカレントシーンのコピー	76
3. 新規インサートエフェクト (FX1)	78
3.1. 2 BAND EQ.....	78
3.2. MULTI MODE FILTER.....	79
4. メトロノーム、カウントイン機能 (BPM/QUANTIZE, UTILITY)	80
4.1. メトロノーム設定	80
4.2. カウントイン設定	80
5. ブラウズ関連機能 (BROWSE)	81
5.1. プレビュー設定.....	81
5.2. サンプルのアンロード.....	81
6. シーケンス編集機能 (SEQUENCE)	82
6.1. トリガーの一括消去	82
6.2. クオンタイズ	82
7. タッチストリップ「PITCH」モード時のレンジ変更機能	83
取扱説明書 正誤表	84
付録 1. MIDI インプリメンテーションチャート.....	87
ノート.....	87
コントロールチェンジ.....	89
ピッチベンド.....	90
モードメッセージ.....	90
付録 2. SHIFT キーを使った機能一覧.....	91

はじめに

TORAIZ SP-16 取扱説明書は Version 1.00 のファームウェアをベースに作成されています。

このドキュメントには、取扱説明書の記載内容に対し Version.1.10、Version 1.20、Version 1.30、Version 1.40、Version 1.50 および Version 1.60 ファームウェアで追加された機能の説明と、取扱説明書の記載内容に誤りがあった部分の正誤表が記載されています。

Version 1.60 では以下の機能が追加されました。

- ・ FX2 モジュール
- ・ MIDI OUT 出力設定

また、Version 1.60 では以下の機能の動作が改善されました。

- ・ MIDI IN チャンネル設定
- ・ SYNC SOURCE SELECT 設定

Version 1.50 では以下の機能が追加されました。

- ・ LIVE SAMPLING 機能
- ・ AUDIO INPUT BPM

Version 1.40 では主に以下の機能が追加されました。

- ・ シーケンスの複製/消去
- ・トラックの複製/消去
- ・ シーンファイルの削除
- ・トラックの入れ替え

また、Version 1.40 では以下の機能の動作が改善されました。

- ・ 詳細波形表示の拡大・縮小
- ・ トリガーの一括削除
- ・ 扱えるサンプル音源が最長 64 秒まで拡張
- ・ ミュート機能
- ・ ダイナミック REC の UNDO
- ・ BROWSE 画面での BACK ボタン押下時のふるまい BROWSE 関連
- ・ フォルダー構成
- ・ Project メニュー
- ・ Dave Smith Filter の設定

Version 1.30 では主に以下の機能が追加されました。

- ・ SET SCALE
- ・ シーンファイルのエクスポート・インポート

- ・ アナログフィルターセッティング
- ・ インサートエフェクト（新規 2 種類）
- ・ マスター/センドエフェクト（新規 1 種類）
- ・ バンクセレクト・プログラムチェンジ
- ・ TORAIZ AS-1 連携用トラック属性

また、Version 1.30 では以下の機能の動作が改善されました。

- ・ BYPASS
- ・ 詳細波形表示の拡大・縮小
- ・ SLICE モード演奏時のトリガーの打ち込み

Version 1.20 では主に以下の機能が追加されました。

- ・ MIDI IN
- ・ MIDI OUT
- ・ SET SLICE
- ・ LFO
- ・ インサートエフェクト（機能拡張 1 種類、新規 4 種類）
- ・ マスター/センドエフェクト（どちらかを切替えて使用可、エフェクト種類追加）
- ・ オーディオレンダリング

Version 1.10 では主に以下の機能が追加されました。

- ・ PRO DJ LINK を使った DJ プレーヤーとの SYNC
- ・ プロジェクトのパッケージ化/シーンのプロジェクト間コピー
- ・ インサートエフェクト（2 BAND EQ, MULTIMODE FILTER）
- ・ メトロノーム/カウントイン機能
- ・ ブラウズ関連機能
- ・ シーケンス編集機能
- ・ タッチストリップ「PITCH」モードのレンジ設定

各追加機能についての詳細は以下のページで説明します。

システムバージョンの確認方法

1. 電源を ON してください。
2. HOME 画面で[UTILITY]ボタンをタップすると、UTILITY 画面が表示されます。
3. ロータリーセレクターで画面をスクロールさせると、下から 2 番目に Version No.が表示されます。
4. [UTILITY]ボタンをタップすると UTILITY 画面から抜けます。

ファームウェア Ver.1.60

1. FX2 モジュール

サンプルトラックとスルートラックで、2つ目のインサートエフェクトモジュールである FX2 を使用できるようになりました。操作方法は FX1 と同様です。



1 FX2

タップで選択、もう一度タップで FX2 画面に遷移します。または、ロータリーセレクターで選択、そのまま押して遷移します。

FX2 画面で設定した FX アイコンが、ボタン内のサムネイルに表示されます。

1.1. LFO の対象パラメーター

FX2 モジュールの追加に伴い、LFO の DESTINATION に FX2 の各種エフェクトのパラメーターを設定できるようになりました。

対象パラメーターはファームウェア Ver.1.30 の「8.1. LFO の対象パラメーターの選択」を参照してください。FX1 と同様のパラメーターを設定できます。

1.2. タッチストリップにアサイン可能なパラメーター

FX2 モジュールの追加に伴い、TOUCH STRIP SETTING (USER1/USER2) に FX2 の各種エフェクトのパラメーターを設定できるようになりました。

対象パラメーターはファームウェア Ver.1.30 の「8.2. タッチストリップにアサイン可能なパラメーター」を参照してください。FX1 と同様のパラメーターを設定できます。

2. MIDI IN チャンネル設定

トラックに設定した MIDI CH を他のトラックにも重複設定できるようになりました。

MIDI IN チャンネル設定はユーティリティー画面の PROJECT SETTING (MIDI IN)カテゴリーで行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
CHANNEL MAPPING	なし (CH 設定ポップアップが表示されます)

各トラック (TRACK1~TRACK16) に任意の MIDI CH (CH.1~CH.16) を設定できます。MIDI メッセージを受信したくないトラックには OFF を設定します。

3. MIDI OUT 出力設定

USB-B 端子から MIDI OUT/THRU 端子、および MIDI IN 端子から USB-B 端子へ MIDI メッセージを出力できるようになりました。

MIDI OUT/THRU 端子および USB-B 端子の出力設定は、ユーティリティー画面の設定項目 MIDI OUT MODE (DIN)および MIDI OUT MODE (USB)で行います。

3.1. MIDI OUT/THRU 端子の出力設定

MIDI OUT/THRU 端子の出力設定はユーティリティー画面の MACHINE SETTING カテゴリで行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
MIDI OUT MODE (DIN)	OUT / OUT+MIDI IN / OUT+USB IN / THRU (MIDI IN) / THRU (USB IN)

OUT : 本機の MIDI メッセージを出力します。

OUT + MIDI IN : 本機の MIDI メッセージと MIDI IN 端子で受信した MIDI メッセージをマージして出力します。

OUT + USB IN : 本機の MIDI メッセージと USB-B 端子で受信した MIDI メッセージをマージして出力します。

THRU (MIDI IN) : MIDI IN 端子で受信した MIDI メッセージをそのまま出力します。

THRU (USB IN) : USB-B 端子で受信した MIDI メッセージをそのまま出力します。

3.2. USB-B 端子の出力設定

USB-B 端子の出力設定はユーティリティー画面の MACHINE SETTING カテゴリで行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
MIDI OUT MODE (USB)	OUT / OUT+MIDI IN

OUT : 本機の MIDI メッセージを出力します。

OUT + MIDI IN : 本機の MIDI メッセージと MIDI IN 端子で受信した MIDI メッセージをマージして出力します。

4. SYNC SOURCE SELECT 設定

マスターとなる同期信号を設定します。

SYNC SOURCE SELECT の設定はユーティリティー画面の MACHINE SETTING カテゴリーで行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
SYNC SOURCE SELECT	INTERNAL / PRO DJ LINK / DIN MIDI / USB MIDI

INTERNAL : 本機の BPM 情報に従いシーケンスを再生します。

PRO DJ LINK : LINK 端子で受信した PRO DJ LINK の同期信号にシーケンスを同期します。

DIN MIDI : MIDI IN 端子で受信した MIDI タイミング・クロックにシーケンスを同期します。

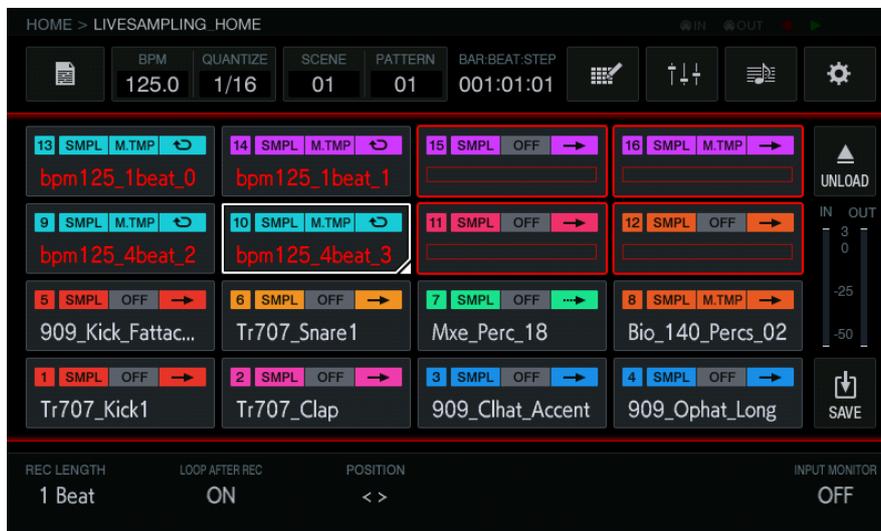
USB MIDI : USB-B 端子で受信した MIDI タイミング・クロックにシーケンスを同期します。

- チャンネル・メッセージは MIDI IN 端子、USB-B 端子から常時受信します。
- ファームウェア Ver.1.50 以前のユーティリティー画面の設定項目 MIDI I/F SELECT は廃止されました。

ファームウェア Ver.1.50

1. LIVE SAMPLING

INPUT 端子に入力された音をサンプリングし、すぐにパフォーマンスに使用できます。



1.1. LIVE SAMPLING 画面を開く

[SHIFT]+[TRACK]を押すと LIVE SAMPLING 画面に遷移します。

サンプリングする前に[INPUT LEVEL]ツマミで音声レベルを調整してください。その際、INPUT MONITOR で INPUT 端子に入力された音をヘッドホンに出力するかどうかを切り換えることができます。

1.2. サンプリングの開始

サンプルがロードされていないパフォーマンスパッドを叩きます。

- サンプリングしたサンプルは赤色文字で表示されます。
- サンプリング中はアンロードや保存など一部の機能が制限されます。

サンプリングしたいパフォーマンスパッドにすでに別のサンプルがロードされている場合、以下の手順でアンロードしてください。

1. サンプルをアンロードさせたいトラックをタップします。

[SHIFT]ボタンを押しながらトラックをタップすると、複数選択できます。

2. UNLOAD をタップすると、アンロードが実行されます。

サンプリングする長さは、[REC LENGTH]で設定できます。

- 設定できる値は、1/4、1/2、1、2、4、8、16、32、MANUAL です（単位はすべて拍）。
- MANUAL を選択した場合、再び同じパフォーマンスパッドをたたくとサンプリングが終了します。パフォーマンスパッドがたたかれなかった場合、最大 64 秒までサンプリングします。

サンプリングした後、すぐにループ再生するかどうかを[LOOP AFTER REC]で設定できます。

- ON : サンプリング終了後、サンプルの頭から自動再生します。
- OFF : サンプリング終了後、停止します。

[REC LENGTH]で設定した長さに到達した場合や、MANUAL で再び同じパフォーマンスパッドをたたいたときにサンプリングが終了します。

1.3. サンプルの再生開始位置を調整する

1. 調整したいトラックをタップし、選択されている状態で再度タップし調整画面へ移動します。

ロータリーセレクトターを回してトラックを選択し、ロータリーセレクトターを押すことでも調整画面へ移動できます。

2. パラメーター3 調整ツマミを回し、サンプルの再生開始位置を変化させます。

1.4. サンプルを保存する

サンプリングしたサンプルを、ロードされているプロジェクトが保存されているメディアに保存することができます。

保存しないまま他のプロジェクトをロードしたり、電源をオフしたりするとサンプリングしたサンプルは削除されます。

1. 保存したいサンプルがロードされているトラックをタップする

[SHIFT]ボタンを押しながらトラックをタップすると、複数選択できます。

2. SAVE をタップする

保存が実行されます。保存中は[SAVING...]というメッセージが表示されます。

保存が完了すると、赤色文字で表示されたサンプル名が白色で表示されます。

保存先は、PIONEER DJ SAMPLER/Samples/Saved/[Project name]配下になります。

- 保存中は一部の機能が制限されます。

1.5. LIVE SAMPLING 画面を閉じる

[HOME]、[BACK]を押すと HOME 画面に戻りサンプリングモードを終了します。また、[TRACK]、[MUTE]、[SLICE]、[SCALE]を押すと HOME 画面に戻りサンプリングモードを終了します。

画面遷移を伴うボタンをタップすることで、サンプリングモードを終了し、画面が遷移します。

2. AUDIO INPUT BPM



1 AUDIO INPUT BPM

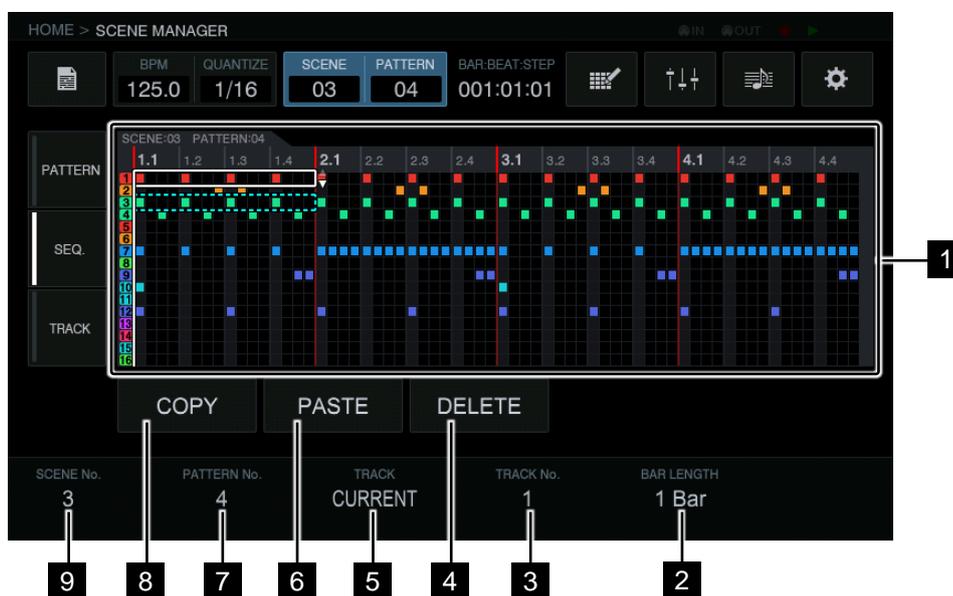
INPUT 端子に入力された音声の BPM を自動解析して表示します。

BPM 測定範囲は BPM=70~180 です。

曲によっては正しく測定できないことがあります。検出できない時は前回検出した BPM 値で点滅します。

ファームウェア Ver.1.40

1. シーケンスの複製/消去



1 シーケンス表示エリア

ロータリーセレクターを回してシーケンスを選択します。

ロータリーセレクターを押すことで横方向と縦方向を切り換えることができます。

2 BAR LENGTH

コピー、または削除するシーケンスの範囲を1小節、または4小節から選択できます。

3 TRACK No.

トラックを選択します。

4 DELETE

選択中のシーケンスを削除できます。

5 TRACK

コピー、または削除するシーケンスの範囲を1トラック、またはすべて（16トラック）から選択できます。

6 PASTE

コピーされているシーケンスを選択中の場所にペーストできます。

何もコピーされていないときは押せません。このとき、[PASTE]ボタンはグレーアウトされています。

7 PATTERN No.

パターンを選択します。

8 COPY

選択中のシーケンスをコピーできます。

コピー中のシーケンスには、コピーされていることを表すインジケータ（点線の枠）が付きます。

9 SCENE No.

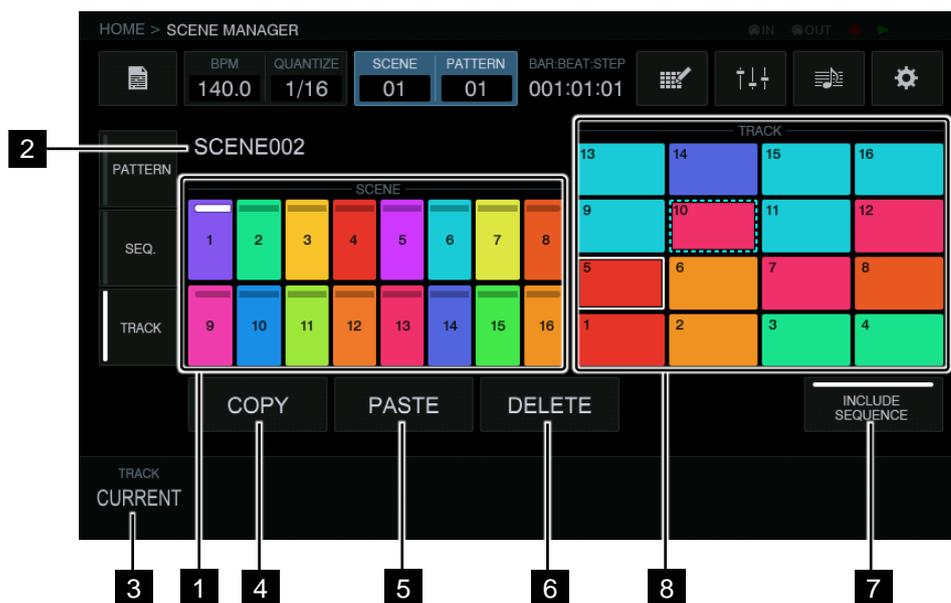
シーンを選択します。

1.1. シーケンス編集画面を開く

[SCENE/PATTERN]ボタンをタップすると SCENE MANAGER 画面に遷移します。

[SEQ.]タブをタップするとシーケンス編集画面に遷移します。

2. トラックの複製/消去



1 シーン表示エリア

ロータリーセレクターを回してシーンを選択し、ロータリーセレクターを押すことでフォーカスがトラック表示エリアに移ります。

タッチディスプレイ上のタッチキーをタップして操作しても選択できます。

現在設定されているシーンはタッチキー上部のインジケーターが白色で点灯します。

2 シーン名

選択しているシーンの名称が表示されます。

シーン名が設定されていない場合は表示されません。

3 TRACK

コピー、または削除するシーケンスの範囲を1トラック、またはすべて（16トラック）から選択できます。

4 COPY

選択中のトラックをコピーできます。

コピー中のトラックには、コピーされていることを表すインジケーター（点線の枠）が付きます。

5 PASTE

コピーされているトラックを選択中の場所にペーストできます。

何もコピーされていないときは押せません。このとき、[PASTE]はグレーアウトされています。また、トラックをコピーしている状態でシーンにフォーカスが当たっている場合も[PASTE]をタップできません。このときも[PASTE]はグレーアウトされます。

6 DELETE

選択中のトラックを削除できます。

トラックを削除するとき、確認ポップアップが表示されます。

7 INCLUDE SEQUENCE

[INCLUDE SEQUENCE]をタップしてオンにすると、シーケンスも含めてコピーできます。

8 トラック表示エリア

ロータリーセレクターを回してトラックを選択し、ロータリーセレクターを押すことでトラックを決定します。

タッチディスプレイ上のタッチキーをタップして操作しても選択できます。

2.1. トラック編集画面を開く

[SCENE/PATTERN]をタップすると SCENE MANAGER 画面に遷移します。

[TRACK]タブをタップするとトラック編集画面に遷移します。

3. シーンファイルの削除

内蔵フラッシュメモリー、USBメモリーの Scenes フォルダー内にある拡張子.scn のファイルを削除します。

1. **SCENE MANAGER 画面に遷移し、[PATTERN]ボタンをタップする。**
2. **いずれかのシーンを選択して、[FILE]をタップする**
ポップアップ画面が表示されます。
3. **ロータリーセレクターを回して[DELETE]を選択し、ロータリーセレクターを押す**
ファイルの一覧が表示されます。
4. **ロータリーセレクターを回して削除したいシーンを選択し、ロータリーセレクターを押す**
確認のポップアップが表示され、[OK]ボタンをタップするとファイルの削除が始まります。

4. トラックの入れ替え

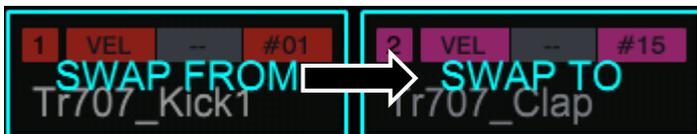
1. トラックセッティング画面で、ロータリーセレクターを回して入れ換えたいトラックを選択し、ロータリーセレクターを押す。

[SWAP FROM]が表示されます。



2. ロータリーセレクターを回して[SWAP TO]を入れ換え先のトラックに移動し、ロータリーセレクターを押す

トラックが入れ換わります。



5. その他

5.1. 波形の拡大・縮小

PLAYBACK 画面、SAMPLING/EDIT 画面における波形の拡大・縮小機能が改善されました。

START カーソルの「S」ボタンまたは END カーソルの「E」ボタンに加え、LOOP START カーソルの「L」ボタンも拡大・縮小時の中心となります。

「S」、「E」または「L」ボタンをタップし選択状態にします。その状態でロータリーセレクターを回転させて拡大・縮小させると、選択されたボタンの位置が画面の中心になるよう移動し、その位置を基準に拡大・縮小を行います。

5.2. トリガーの一括削除

[PATTERN]ボタンを押しながらパフォーマンスパッドをたたくと、そのトラックのトリガーをクリアすることができます。

5.3. 扱えるサンプル音源が最長 64 秒まで拡張

扱えるサンプル音源の長さを最長 64 秒まで拡張しました。

それに伴い、SAMPLING/EDIT での録音時間が 64 秒までとなりました。詳しくは正誤表を参照してください。

5.4. ミュート機能

同一 CHOKE グループ内において、ミュートされているトラックのトリガーが来ても、ミュートされていないトラックは CHOKE 設定には従わず音を出し続けるよう、変更しました。

5.5. ダイナミックレコーディングの UNDO

パッド演奏を記録した後、[SHIFT]+[REC]で記録する前の状態に戻すことができます。

付録 2. SHIFT キーを使った機能一覧を参照してください。

5.6. BROWSE 画面での BACK ボタン押下時のふるまい

BROWSE 画面で FOLDER 表示のとき、[BACK]ボタンを押すと一つ上の階層のフォルダーを選択します。

一番上のフォルダーを選択時は BROWSE 画面を閉じます。

すぐに BROWSE 画面を閉じたいときは[BACK]ボタンを長押しします。

5.7. フォルダー構成

プロジェクト、サンプル、シーンファイルを TORAIZ SP-16、DJS-1000、DJS TSP Project Creator 間で使用できるように格納するフォルダー名を以下のように変更しました。

プロジェクト : /PIONEER DJ SAMPLER/Projects/

サンプル : /PIONEER DJ SAMPLER/Samples/

シーンファイル : /PIONEER DJ SAMPLER/Scenes/

また、オーディオレンダリングしたファイルの保存先も下記に変更になります。

/PIONEER DJ SAMPLER/RenderedAudio/

5.8. Project メニュー

ファームウェア Ver.1.31 で、[Project]メニューの COPY CURRENT SCENE TO...を廃止しました。以降は SCENE MANAGER の FILE から IMPORT/EXPORT をお使いください。

5.9. Dave Smith Filter の設定

Dave Smith Filter の設定が各シーンに記憶できるようになりました。

2 パッド配置範囲

パッドに音が割り当たっている領域を示します。

3 ルートキー

ルートとなるキーを示します。左上に三角の印がつきます。

4 選択キー

最後にパッドで選択したキーを示します。白色に点灯します。

16 ステップキーを押すと選択されたキーのピッチ変化を伴った発音トリガーが打ち込まれます。

5 オクターブキー

ルートキーのオクターブ違いを示します。濃い色で表現します。

6 AREA

PAD に割り当てるキーの領域を設定できます。

7 TIME STRETCH

サンプルをストレッチし、BPM に同期させる方法を設定します。

この設定は SAMPLE トラックのときのみ使用します。

8 KEY SHIFT(SAMPLE トラック時)/ROOT NOTE(MIDI トラック/TORAIZ AS-1 トラック時)

スケールの基音となる音程を調整します。

1.1. SET SCALE 画面を開く

SAMPLE トラックの場合、PLAYBACK 画面で[SET SCALE]ボタンをタップすると SET SCALE 画面に遷移します。

MIDI トラック/TORAIZ AS-1 トラックの場合、TRACK MENU 画面で[SET SCALE]ボタンをタップすると SET SCALE 画面に遷移します。

1.2. スケールの選択

[SCALE]ボタンをタップし使用したいスケールをロータリーセレクターで選択し押し込むことでスケールが決定します。次のスケールから選択可能です。スケールを選択するとそのスケール上の音のみが PAD に割り当てられます。

No.	スケール名
1	Chromatic
2	Ionian
3	Dorian
4	Phrygian
5	Lydian
6	Mixolydian
7	Aeolian
8	Locrian
9	Major Pentatonic
10	Minor Pentatonic
11	Whole Tone
12	Diminish
13	Combination Diminish
14	Altered
15	Major Blues
16	Minor Blues
17	Raga Bhairav
18	Raga Gamanasrama
19	Raga Todi
20	Hawaiian
21	Ryukyu
22	Japanese Miyakobushi

1.3. エリア設定

パラメーター1 調整ツマミを回すことで PAD に割り当てる音の高さのエリアが設定できます。割り当たっている領域はパッド配置範囲で確認します。

1.4. ROOT NOTE の変更(MIDIトラック/TORAIZ AS-1トラック時)

パラメーター3調整ツマミを回すことで ROOT NOTE を変更することができます。変更された音が基音となりパラメーター3調整ツマミの上部に表示されます。

1.5. KEY SHIFT の変更(SAMPLEトラック時)

パラメーター3調整ツマミを回すことで KEY SHIFT を変更することができます。変更されたシフト量分音程を変えたものが基音となります。PLAYBACK 画面の PITCH で設定した音程を KEY SHIFT が 0 の状態とし、KEY SHIFT を変更するとその音程に対してシフトします。

1.6. 選択 PITCH/NOTE

最後にパッドを触ったところが選択 PITCH/NOTE となり白く表示されます。16STEP キーを叩くと、SAMPLE トラックの場合このキーに対応した PITCH が、MIDI トラックの場合このキーに対応した NOTE が、そのステップに記録されます（ステップモジュレーション）。

1.7. TIME STRETCH の変更(SAMPLEトラック時)

サンプルをストレッチし、BPM に同期させる方法を設定します。この設定により、SCALE モードで音程を変化させることができる範囲が変わります。

OFF のとき : ±24 半音までの音程でスケール演奏が可能となります。

RWSMPL のとき : ルートキーのみの演奏となります。

M.TMP のとき : ±12 半音までの音程でスケール演奏が可能となります。

1.8. ルートキー/オクターブキー

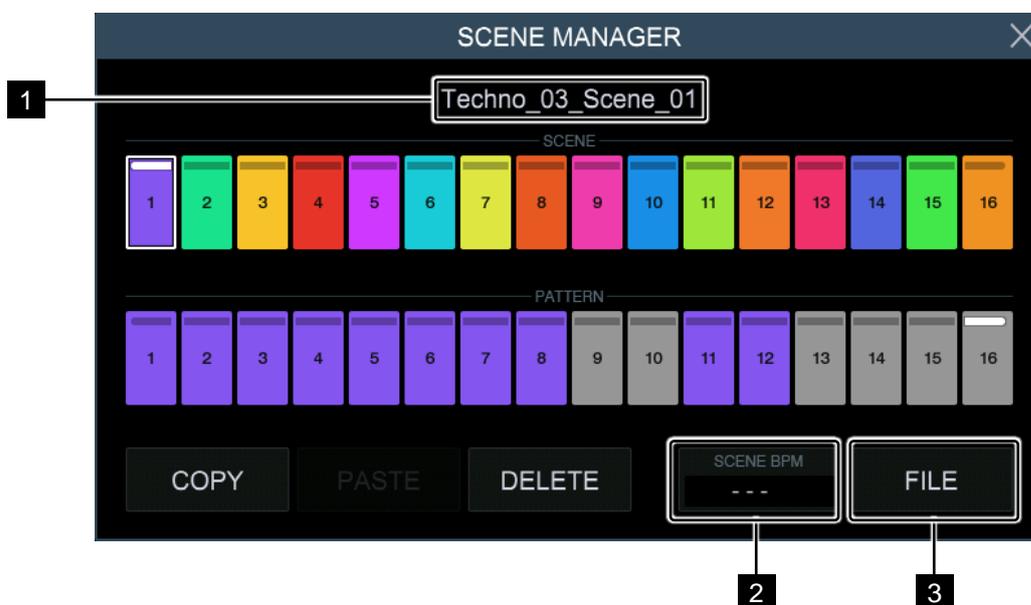
SAMPLE トラックの場合、ルートキーの再生 PITCH は PLAYBACK で設定されている PITCH の値と KEY SHIFT で設定された値を合算したキーとなります。オクターブキーはルートキーのオクターブ違いを示します。

MIDI トラック/TORAIZ AS-1 トラックの場合、ルートキーは ROOT NOTE で設定された音名を示します。オクターブキーはルートキーのオクターブ違いを示します。

2. シーンファイルのエクスポート・インポート (SCENE MANAGER)

作成したパターンをシーン単位でファイルに書き出すことが可能になりました。また、書き出したファイルを別のプロジェクトで読み込むことができます。

シーンごとに、そのシーンを再生するときの BPM を設定することが可能になりました。



1 シーン名

シーンファイルの名称が表示されます。

2 SCENE BPM ボタン

シーンの BPM を設定します。シーンの BPM が表示されています。

3 FILE ボタン

シーンファイルの読み込みや書き出しを行います。

2.1. シーンファイルの書き出し

現在選択されているシーンで使用されている音源を集めて、他のプロジェクトや本体で同じシーンを読み込めるファイル形式で書き出します。

SCENE MANAGER 画面で書き出したいシーンをタップで選択状態にし、[FILE]ボタンをタップし、現れたポップアップ画面の「EXPORT」をロータリーセレクターで選択し、押し込みます。

画面のキーボードを使い、シーンの名前を入力します。

本体に保存する場合は[SAVE]ボタンを、USB メモリーに保存する場合は[SAVE TO USB]をタップします。

Scenes フォルダの拡張子.scn のファイルがシーンファイルになります。

保存先は PIONEER DJ SAMPLER/Scenes/配下になります。

2.2. シーンファイルの読み込み

本体または USB メモリーの Scenes フォルダ内の拡張子.scn のファイルを読み込みます。

SCENE MANAGER 画面で読み込ませたいシーンをタップで選択状態にし、[FILE]ボタンをタップし、現れた画面の「IMPORT」をロータリーセクターで選択し、押し込みます。

表示された一覧から読み込みたいシーンをロータリーセクターで選択し、押し込むと読み込みが始まります。

2.3. シーンの BPM

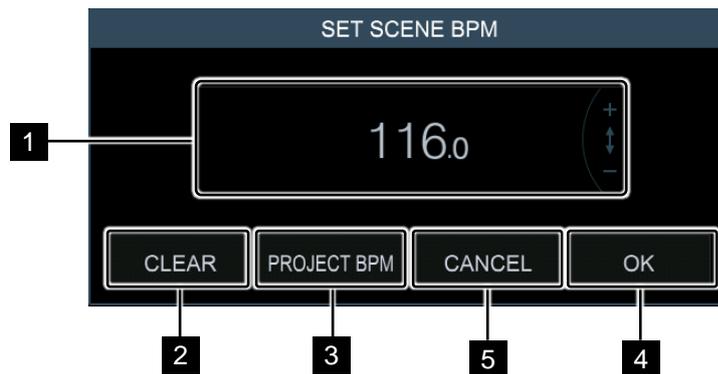
シーン毎に BPM 値を設定することができます。この BPM 値はシーン内のパターンすべて共通で、パターン毎の BPM 値は設定できません。

そのシーン内のパターンに切り替わったとき、BPM/QUANTIZE での BPM 値もシーンの BPM 値となり、そのテンポで再生されます。シーンに BPM 値が設定されていない場合、「---」が表示され、BPM/QUANTIZE 画面で設定されている BPM 値で再生します。

そのパターンを再生中に BPM/QUANTIZE の BPM 値を変化させることでテンポを調整することは可能です。ただし、その BPM 値はシーンの BPM 値には反映されません。シーンの BPM 値は SCENE MANAGER 内の BPM 設定で行います。

BPM 値を持つシーンのパターンを ARRENGER 画面で追加すると、BPM 値にシーンの BPM 値が設定されます。ただし、パラメーター調整ツマミで設定を変更できます。

SCENE MANAGER 画面で[SCENE BPM]ボタンをタップします。



1 シーンの BPM 設定

ロータリーセレクターでシーンの BPM 値を変更します。

2 CLEAR ボタン

タップすることでシーンの BPM 値をリセットすることができます。表示は「---」となり、このシーンのパターンが再生されるときは BPM/QUANTIZE 画面で設定された BPM 値で再生されます。このシーンを出力するとき BPM/QUANTIZE 画面で設定されている BPM 値をシーンの BPM 値として出力します。

3 PROJECT BPM ボタン

BPM/QUANTIZE 画面で設定されている BPM をシーンの BPM 値として設定します。

4 OK ボタン

シーンの BPM 値を確定し、ポップアップを閉じます。

5 CANCEL ボタン

シーンの BPM 値を、ポップアップを開いたときの値に戻して、ポップアップを閉じます。

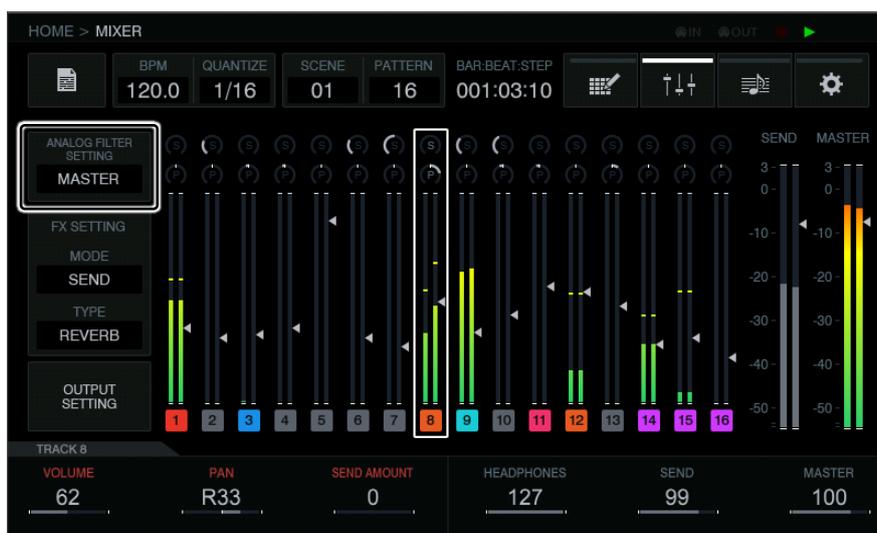
3. アナログフィルターセッティング (MIXER)

アナログフィルターをいずれかのトラックにインサートして使うことが可能となりました。

- いずれかのトラックの FX がかかる前段または後段、あるいはマスター出力を選択できます。
- レンダリング時、アナログフィルターの効果を加えることはできません。

3.1. 設定

MIXER 画面で[ANALOG FILTER SETTING]ボタンをタップすることで設定ができます。



ロータリーセレクターで INSERT TRACK を選択し押し込むと右列にカーソルが移動し、ロータリーセレクターの回転で TRACK 1 から TRACK 16、または MASTER が選択できます。

どのトラックに対して使うのか、あるいはマスターの後にかけるかを選択しロータリーセレクターを押し込むことで決定します。

トラックに対して使う場合、エフェクト (FX1) の前段に使うか、後段に使うかを選択できます。

ロータリーセレクターで INSERT ORDER を選択し押し込むと右列にカーソルが移動し、ロータリーセレクターの回転で Pre FX、または Post FX が選択できます。

インサートエフェクトの前段にフィルターをかけたい場合 Pre FX を、後段にかけたい場合 Post FX を選択し、ロータリーセレクターを押し込みます。

4. 新規エフェクト (FX1、MASTER/SEND FX)

インサートエフェクトに PHASER と DUCKER、マスター/センドエフェクトに PHASER が追加されました。

4.1. PHASER



1 RATE

LFO の比率を SYNC の状態に合わせて設定します。

SYNC OFF 時 : 範囲は 0.01Hz から 10Hz です。

SYNC ON 時 : 範囲は 1/16BEAT から 64/1BEAT です。

2 WIDTH

LFO によるフィルターのカットオフの最大触れ幅を変更します。範囲は 0% から 100% です。

3 PHASE

LR の LFO の位相差を変更します。範囲は 0° から 180° です。

4 FREQUENCY

フィルターの適用周波数帯域の動作範囲の最大値を変更します。範囲は 300Hz から 18kHz です。

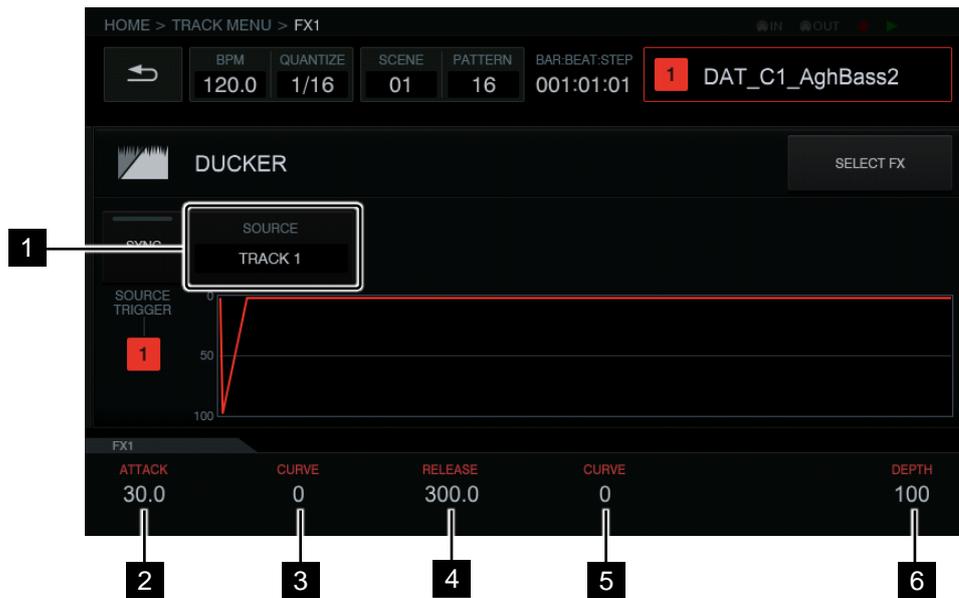
5 FEEDBACK

フィードバック量を変更します。範囲は 0% から 99% です。

6 MIX RATIO

原音とエフェクト音とのミックス比率を変更します。範囲は 0% から 100% です。

4.2. DUCKER



1 トリガーソースの選択

トリガーとなるソースをトラック 1 からトラック 16 の中から選択します。

2 ATTACK

音量が下がるまでの値を SYNC の状態に合わせて設定します。

SYNC OFF 時 : 音量が下がるまでの時間を変更します。範囲は 0ms から 1000ms です。

SYNC ON 時 : 音量が下がるまでのステップ数を変更します。範囲は 0 ステップから 4 ステップです。

3 ATTACK CURVE

ATTACK CURVE を設定します。範囲は-100%から 100%です。

4 RELEASE

音量が下がってから最大値に戻るまでの値を SYNC の状態に合わせて設定します。

SYNC OFF 時 : 音量が下がってから最大値に戻るまでの時間を設定します。範囲は 0.1ms から 8000ms です。

SYNC ON 時 : 音量が下がってから最大値に戻るまでの step 数を設定します。範囲は 0.25 ステップから 32 ステップです。

5 RELEASE CURVE

CURVE を設定します。範囲は-100%から 100%です。

6 DEPTH

音量の下がり度合いを変更します。範囲は 0%から 100%です。

5. BYPASS (TRACK MENU)

5.1. BYPASS の設定

Ver.1.3 より BYPASS の動作が変わります。BYPASS ボタンをタップすると BYPASS 設定モードとなり、TRACK MENU 内のモジュールを個別にバイパスすることが可能になりました。

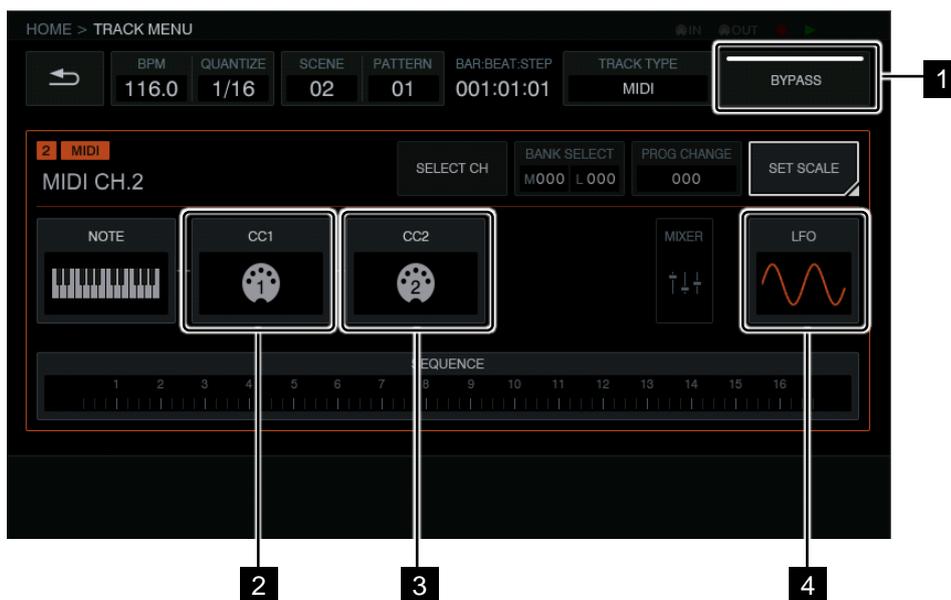
SAMPLE トラックの TRACK MENU 画面



THRU トラックの TRACK MENU 画面



MIDIトラック/TORAIZ AS-1トラックのTRACK MENU画面



1 BYPASS ボタン

ON/OFF を切り替えることで各ボタンが次のような働きとなります。

ON のとき : 下記(2 ~ 6)のモジュールに対しバイパスするかしないかを設定するモードとなります。

OFF のとき : 下記(2 ~ 6)のモジュールボタンをタップするとそれぞれの設定画面に遷移します。ただしバイパスするように設定したモジュールの設定画面には遷移できません。

以下は ON のときについて説明します。

2 AMP ENVELOPE ボタン

AMP ENVELOPE モジュールの設定をバイパスするかしないかを切り替えます。

3 FX1 ボタン

FX1 モジュールの設定をバイパスするかしないかを切り替えます。

4 LFO ボタン

LFO モジュールの設定をバイパスするかしないかを切り替えます。

5 CC1 ボタン

CC1 モジュールの設定をバイパスするかしないかを切り替えます。

6 CC2 ボタン

CC2 モジュールの設定をバイパスするかしないかを切り替えます。

次のモジュールを個別にバイパスさせることができます。

SAMPLE トラック : AMP ENVELOPE, FX1, LFO

MIDI トラック/AS-1 トラック : CC1, CC2, LFO

THRU トラック : FX1, LFO

ボタン内のサムネイル画像がグレーアウトされているものはその処理がバイパスされています。タップするごとにバイパスするかしらないかが切り替わります。

6. バンクセレクト・プログラムチェンジ (TRACK MENU)

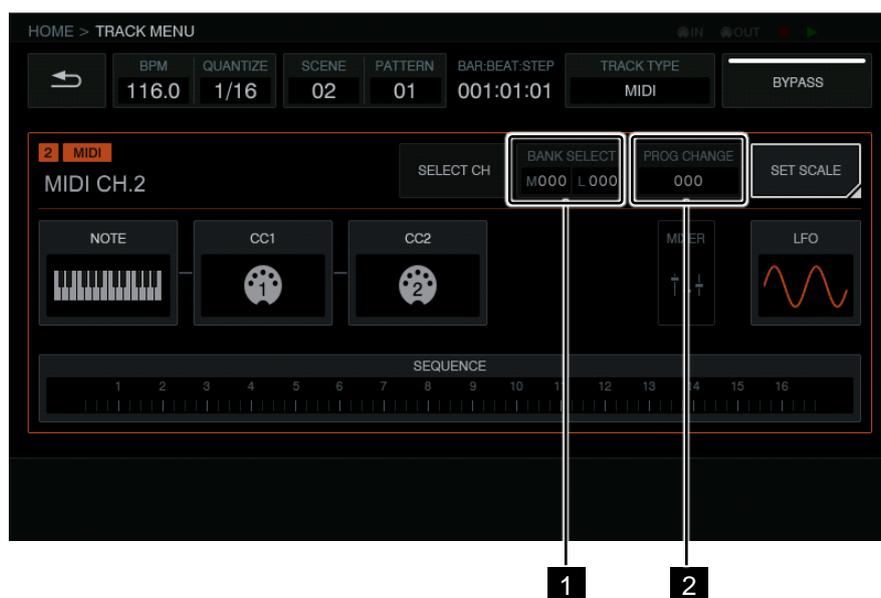
MIDIトラック（またはTORAIZ AS-1トラック）時、バンクセレクトとプログラムチェンジメッセージが送信可能となりました。

DIN MIDI で接続する場合

1. 外部MIDI機器のMIDI IN端子と本機のMIDI OUT/THRU端子をMIDIケーブルで接続します。
2. HOME画面で[UTILITY]ボタンをタップしてUTILITY画面を表示します。
3. MACHINE SETTINGカテゴリーのMIDI I/F SELECTで「DIN MIDI」を選択します。

USB MIDI で接続する場合

1. PCと本機のUSB-B端子をUSBケーブルで接続します。
2. HOME画面で[UTILITY]ボタンをタップしてUTILITY画面を表示します。
3. MACHINE SETTINGカテゴリーのMIDI I/F SELECTで「USB MIDI」を選択します。



1 BANK SELECT ボタン

送信するバンクの値を変更します。

2 PROG CHANGE ボタン

送信するプログラムチェンジの値を変更します。

6.1. バンクセレクトの送信

MIDIトラックのTRACK MENU画面の[BANK SELECT]ボタンをタップします。

MSB を変更したい場合は MSB の領域を、LSB を変更したい場合は LSB の領域をタップします。

設定したい値になるようにロータリーセレクターを回転させます。[OK]ボタンをタップすると、値が確定し、ポップアップが閉じます。

設定した値は[BANK SELECT]ボタンに表示されます。

6.2. プログラムチェンジの送信

MIDIトラックの TRACK MENU 画面の[PROG CHANGE]ボタンをタップします。

設定したい値になるようにロータリーセレクターを回転させます。[OK]ボタンをタップすると、値が確定し、ポップアップが閉じます。

設定した値は[PROG CHANGE]ボタンに表示されます。

- バンクセレクト・プログラムチェンジの値は SCENE ごとに設定することができます。SCENE 切り替え操作に連動して外部 MIDI 機器のプログラムを変えることが可能です。

7. TORAIZ AS-1 連携用トラック属性

アナログ・シンセサイザー TORAIZ AS-1 を MIDI OUT に接続し演奏する際に便利な専用トラック属性が追加されました。

1. TORAIZ AS-1 の MIDI IN 端子と本機の MIDI OUT/THRU 端子を MIDI ケーブルで接続します。
2. HOME 画面で[UTILITY]ボタンをタップして UTILITY 画面を表示します。
3. MACHINE SETTING カテゴリの MIDI I/F SELECT で「DIN MIDI」を選択します。
4. TORAIZ AS-1 本体の[GLOBAL SETTING]にて、MIDI Channel : ALL または任意のチャンネル、MIDI Param Rcv : CC、MIDI Control Enable : On に設定してください。

上記設定を行った後、MIDI 演奏したいトラックの TRACK MENU 画面にて[TRACK TYPE]ボタンをタップし、ロータリーセクターで[TORAIZ AS-1]を選択します。



1 BANK SELECT ボタン

プリセットが格納されているバンクの値を変更します。

2 PROG CHANGE ボタン

送信するプログラムチェンジの値を変更します。

7.1. プリセットの切り替え

バンクセレクトとプログラムチェンジを使って、AS-1 のプログラムを選択することができます。

[BANK SELECT]ボタンをタップし、ロータリーセクターで呼び出したいプリセットが格納されているバンクを選択し押し込むことでバンクが決定します。次の中から選択します。

[U1] ~ [U5] : ユーザーバンク

[F1] ~ [F5] : ファクトリーバンク

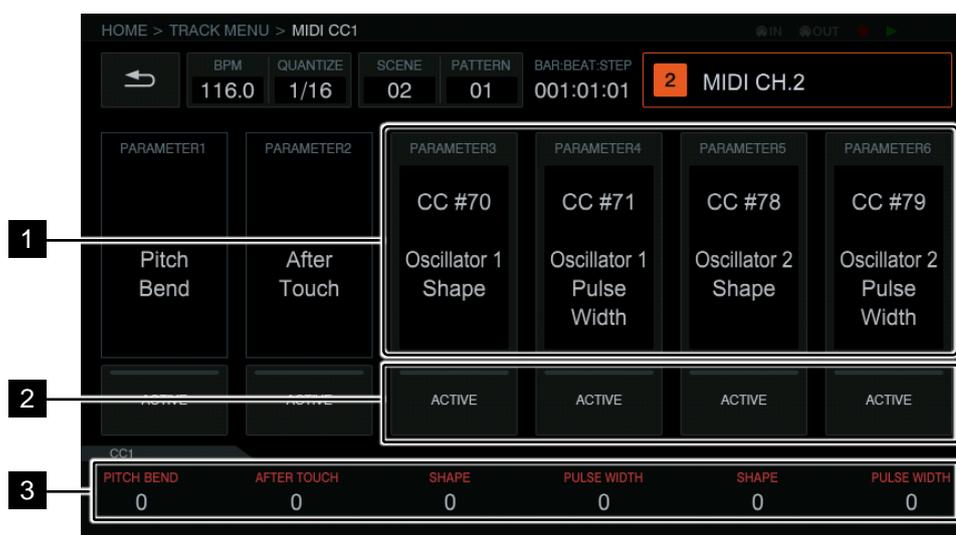
[PROG CHANGE]ボタンをタップし、ロータリーセレクターで呼び出したいプログラムを選択し押し込むことでプログラムが決定します。バンクセレクト・プログラムチェンジの値は SCENE ごとに設定することができます。

7.2. MIDI NOTE 設定

MIDIトラックと同様に、MIDI NOTE が設定できます。ただし、TORAIZ AS-1 は和音に対応しないため NOTE2、NOTE3、NOTE4 の設定はできません。

7.3. MIDI CC 設定

[CC1]ボタン、または[CC2]ボタンをタップすると TORAIZ AS-1 の MIDI CC 対応パラメーターを設定する画面に遷移します。



1 CC 番号選択ボタン

PARAMETER1 から PARAMETER6 のコントロールチェンジ番号を変更します。

CC1 設定画面の PARAMETER1(Pitch Bend)および PARAMETER2(After Touch)は変更できません。

2 ACTIVE ボタン

PARAMETER1 から PARAMETER6 のアクティブ、非アクティブを切り替えます。

3 CC 値

PARAMETER1 から PARAMETER6 のコントロールチェンジ値を変更します。

8. その他

8.1. LFOの対象パラメーターの選択

対象パラメーターとして FX1 カテゴリーの DUCKER のパラメーターと PHASER のパラメーターと MIXER カテゴリーのパラメーターが追加になりました。

カテゴリー名称	パラメーター名称	
PLAYBACK	PITCH	
	START	
	LOOP START	
	LENGTH	
AMP ENVELOPE	VELOCITY	
	ATTACK	
	HOLD	
	RELEASE	
FX1	2 BAND EQ B1 Q	
	2 BAND EQ B1 FREQUENCY	
	2 BAND EQ B1 GAIN	
	2 BAND EQ B2 Q	
	2 BAND EQ B2 FREQUENCY	
	2 BAND EQ B2 GAIN	
	CHORUS RATE	
	CHORUS WIDTH	
	CHORUS PHASE	
	CHORUS DELAY	
	CHORUS MIX RATIO	
	COMPRESSOR RATIO	
	COMPRESSOR ATTACK	
	COMPRESSOR RELEASE	
	COMPRESSOR THRESHOLD	
	COMPRESSOR OUTPUT GAIN	
	COMPRESSOR MIX RATIO	
	DELAY TIME	
	DELAY FEEDBACK	
	DELAY HI CUT	
	DELAY MIX RATIO	
	DISTORTION DRIVE	
	DISTORTION LO FREQ	
	DISTORTION HI FREQ	
	DISTORTION DYNAMICS	
	DISTORTION TONE	
	DISTORTION MIX RATIO	
	DUCKER ATTACK	
	DUCKER CURVE (ATTACK)	
	DUCKER RELEASE	
	DUCKER CURVE (RELEASE)	
	DUCKER DEPTH	
		FLANGER RATE
		FLANGER WIDTH
		FLANGER PHASE
		FLANGER DELAY
		FLANGER FEEDBACK
		FLANGER MIX RATIO
		LO-FI PREAMP
		LO-FI REDUCTION
		LO-FI BIT DEPTH
LO-FI CUTOFF		
LO-FI RESONANCE		
LO-FI MIX RATIO		
MULTI MODE FILTER CUTOFF		
MULTI MODE FILTER GAIN		
MULTI MODE FILTER RESONANCE		
MULTI MODE FILTER GLIDE		
MULTI MODE FILTER MIX RATIO		
MIDI NOTE	PHASER RATE	
	PHASER WIDTH	
	PHASER PHASE	
	PHASER FREQUENCY	
	PHASER FEEDBACK	
	PHASER MIX RATIO	
MIDI CC1	VELOCITY	
	LENGTH	
MIDI CC2	PARAMETER 1 PITCH BEND	
	PARAMETER 2 AFTER TOUCH	
	PARAMETER 3	
	PARAMETER 4	
	PARAMETER 5	
	PARAMETER 6	
MIXER	PARAMETER 1	
	PARAMETER 2	
	PARAMETER 3	
	PARAMETER 4	
	PARAMETER 5	
	PARAMETER 6	
	VOLUME	
	PAN	
	SEND AMOUNT	

8.2. タッチストリップにアサイン可能なパラメーター

アサイン可能なパラメーターとして FX1 カテゴリの DUCKER のパラメーターと PHASER のパラメーターと MIXER カテゴリのパラメーターが追加になりました。

カテゴリ名称	パラメーター名称
PLAYBACK	PITCH
AMP ENVELOPE	VELOCITY
	ATTACK
	HOLD
	RELEASE
FX1	2BAND EQ B1 Q
	2BAND EQ B1 FREQUENCY
	2BAND EQ B1 GAIN
	2BAND EQ B2 Q
	2BAND EQ B2 FREQUENCY
	2BAND EQ B2 GAIN
	CHORUS RATE
	CHORUS WIDTH
	CHORUS PHASE
	CHORUS DELAY
	CHORUS MIX RATIO
	COMPRESSOR RATIO
	COMPRESSOR ATTACK
	COMPRESSOR RELEASE
	COMPRESSOR THRESHOLD
	COMPRESSOR GAIN
	COMPRESSOR MIX RATIO
	DELAY TIME
	DELAY FEEDBACK
	DELAY HI CUT
	DELAY MIX RATIO
	DISTORTION DRIVE
	DISTORTION LO FREQ
	DISTORTION HI FREQ
	DISTORTION DYNAMICS
	DISTORTION TONE
	DISTORTION MIX RATIO
	DUCKER ATTACK
	DUCKER ATTACK CURVE
	DUCKER RELEASE
	DUCKER RELEASE CURVE
	DUCKER DEPTH
	FLANGER RATE
	FLANGER WIDTH
	FLANGER PHASE
	FLANGER DELAY
	FLANGER FEEDBACK
	FLANGER MIX RATIO
	LO-FI PREAMP
	LO-FI REDUCTION
	LO-FI BIT DEPTH
	LO-FI CUT OFF
	LO-FI RESONANCE
	LO-FI MIX RATIO
	MULTI MODE FILTER CUT OFF
	MULTI MODE FILTER GAIN
	MULTI MODE FILTER RESONANCE
	MULTI MODE FILTER GLIDE
	MULTI MODE FILTER MIX RATIO
	PHASER RATE
	PHASER WIDTH
	PHASER PHASE
	PHASER FREQUENCY
	PHASER FEEDBACK
	PHASER MIX RATIO
MIDI NOTE	VELOCITY
	LENGTH
MIDI CC1	PARAMETER1 PITCH BEND
	PARAMETER2 AFTER TOUCH
	PARAMETER3
	PARAMETER4
	PARAMETER5
	PARAMETER6
MIDI CC2	PARAMETER1
	PARAMETER2
	PARAMETER3
	PARAMETER4
	PARAMETER5
	PARAMETER6
MIXER	VOLUME
	PAN
	SEND AMOUNT
LFO	SPEED
	DEPTH
SEQUENCE	RETRIGGER CNT
	RETRIGGER SPD

8.3. 波形の拡大・縮小

PLAYBACK 画面、SAMPLING/EDIT 画面における波形の拡大・縮小機能が改善されました。

START カーソルの「S」ボタンまたは END カーソルの「E」ボタンをタップし選択状態にします。その状態でロータリーセレクターを回転させて拡大/縮小させると、選択されたボタンの位置が画面の中心になるよう移動し、その位置を基準に拡大・縮小を行います。

選択されているボタンを再度タップすると選択が解除されます。どちらかが選択されているときにもう一方のボタンをタップすると選択状態がタップされたボタンに移ります。

どちらのボタンも選択されていない場合、表示中の波形画面の中心を基準に拡大・縮小を行います。

8.4. SLICE モード演奏時のトリガーの打ち込み

SLICE モード演奏時、下記の 2 通りの方法でトリガーのステップ入力が可能となりました。

1. 鳴らしたいパッドを叩いてから打ち込みたいステップの 16 ステップキーを押す。
2. 打ち込みたいステップの 16 ステップキーを押しながら、そこに打ち込みたいパッドを叩く。
 - SCALE モード演奏時のトリガー打ち込みも同様の方法でステップ入力が可能です。

ファームウェア Ver.1.20

1. MIDI IN

外部 MIDI 機器から MIDI メッセージを受信する機能が追加されました。これにより、外部 MIDI 機器からのシーケンスや操作に従って本機の音源や各種パラメーターを操作できます。

DIN MIDI で接続する場合

1. 外部 MIDI 機器の MIDI OUT 端子と本機の MIDI IN 端子を MIDI ケーブルで接続します。
2. HOME 画面で[UTILITY]ボタンをタップして UTILITY 画面を表示します。
3. MACHINE SETTING カテゴリの MIDI I/F SELECT で「DIN MIDI」もしくは「DIN MIDI(THRU H/W)」を選択します。

USB MIDI で接続する場合

1. コンピューターと本機の USB-B 端子を USB ケーブルで接続します。
2. HOME 画面で[UTILITY]ボタンをタップして UTILITY 画面を表示します。
3. MACHINE SETTING カテゴリの MIDI I/F SELECT で「USB MIDI」を選択します。

1.1. 各種 MIDI メッセージの受信可否設定

各種 MIDI メッセージの受信可否設定はユーティリティー画面の PROJECT SETTING (MIDI IN)カテゴリで行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
CLOCK	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 外部 MIDI 機器からの MIDI CLOCK に本機のシーケンサーの BPM が同期します。

DISABLE : 外部 MIDI 機器から MIDI CLOCK を受信しません。

設定項目	設定値
START/STOP/CONTINUE	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 外部 MIDI 機器のシーケンス再生/停止などの操作に同期します。

DISABLE : 外部 MIDI 機器から START、STOP、CONTINUE メッセージを受信しません。

設定項目	設定値
NOTE/CC	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 外部 MIDI 機器からの NOTE、CC (Pitch Bend を含む) に従って本機を操作できます。

DISABLE : 外部 MIDI 機器から NOTE、CC (Pitch Bend を含む) メッセージを受信しません。

- 設定値とは別に、NOTE は TRACK TYPE が「SAMPLE」の場合のみ受信されます。
- 設定値とは別に、CC は TRACK TYPE が「SAMPLE」または「THRU」の場合のみ受信されます。

設定項目	設定値
SONG POSITION	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 外部 MIDI 機器からのソング・ポジション・ポインターにより再生位置が決まります。

DISABLE : 外部 MIDI 機器からソング・ポジション・ポインターを受信しません。

1.2. MIDI IN チャンネル設定

MIDI IN チャンネル設定はユーティリティー画面の PROJECT SETTING (MIDI IN)カテゴリーで行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
CHANNEL MAPPING	なし (CH 設定ポップアップが表示されます)

各トラック (TRACK1~TRACK16) に任意の MIDI CH (CH.1~CH.16) を設定できます。MIDI メッセージを受信したくないトラックには OFF を設定します。

- 複数のトラックに同じ MIDI CH を設定することはできません。1 つの MIDI CH を設定できるのは 1 トラックだけです。

設定項目	設定値
CHANNEL MAPPING RESET	なし (RESET を実行します)

CHANNEL MAPPING で設定した MIDI CH をリセットします。リセットを行うとトラック No.と MIDI CH が同じ番号の初期値に戻ります。

TRACK1 : CH.1

TARCK2 : CH.2

...

TRACK16 : CH.16

2. MIDI OUT

外部 MIDI 機器へ MIDI メッセージを送信する機能が追加されました。これにより、本機での演奏や MIDI シーケンスに従い外部 MIDI 音源を使った演奏ができます。

DIN MIDI で接続する場合

1. 外部 MIDI 機器の MIDI IN 端子と本機の MIDI OUT/THRU 端子を MIDI ケーブルで接続します。
2. HOME 画面で[UTILITY]ボタンをタップして UTILITY 画面を表示します。
3. MACHINE SETTING カテゴリの MIDI I/F SELECT で「DIN MIDI」を選択します。

USB MIDI で接続する場合

4. PC と本機の USB-B 端子を USB ケーブルで接続します。
5. HOME 画面で[UTILITY]ボタンをタップして UTILITY 画面を表示します。
6. MACHINE SETTING カテゴリの MIDI I/F SELECT で「USB MIDI」を選択します。

上記設定を行った後、MIDI 演奏したいトラックの TRACK MENU 画面にて[TRACK TYPE]ボタンをタップし、ロータリーセレクターで「MIDI」を選択します。

MIDI トラックで送信する MIDI ノートや MIDI コントロールチェンジの詳細な設定については、「2.3. MIDI NOTE 設定 (MIDI NOTE、SEQUENCE)」や「2.4. MIDI CC 設定 (MIDI CC1/CC2)」を参照してください。

2.1. 各種 MIDI メッセージの送信可否設定

各種 MIDI メッセージの送信可否設定はユーティリティー画面の PROJECT SETTING (MIDI OUT)カテゴリで行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
CLOCK	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 本機シーケンサーの BPM をもとに外部 MIDI 機器へ MIDI CLOCK を送信します。

DISABLE : 外部 MIDI 機器へ MIDI CLOCK を送信しません。

設定項目	設定値
START/STOP/CONTINUE	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 外部 MIDI 機器へ START、STOP、CONTINUE メッセージを送信します。

DISABLE : 外部 MIDI 機器へ START、STOP、CONTINUE メッセージを送信しません。

設定項目	設定値
NOTE/CC	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 外部 MIDI 機器へ NOTE、CC (Pitch Bend、After Touch を含む) を送信します。

DISABLE : 外部 MIDI 機器へ NOTE、CC (Pitch Bend、After Touch を含む) を送信しません。

設定項目	設定値
SONG POSITION	ENABLE/DISABLE

ENABLE : 外部 MIDI 機器へソング・ポジション・ポインターを送信します。

DISABLE : 外部 MIDI 機器へソング・ポジション・ポインターを送信しません。

2.2. MIDI OUT チャンネル設定

MIDI OUT チャンネルを設定するには、MIDI を送信する MIDI トラックの TRACK MENU 画面で[SELECT CH]ボタンをタップします。現れたポップアップから CH を設定します。

設定した MIDI OUT チャンネルをリセットするにはユーティリティー画面の PROJECT SETTING (MIDI OUT)カテゴリーの CHANNEL MAPPING RESET を実行します。

設定項目	設定値
CHANNEL MAPPING RESET	なし (RESET を実行)

TRACK MENU 画面で設定した MIDI CH をリセットします。リセットを行うとトラック No.と MIDI CH が同じ番号の初期値に戻ります。

TRACK1 : CH.1

TARCK2 : CH.2

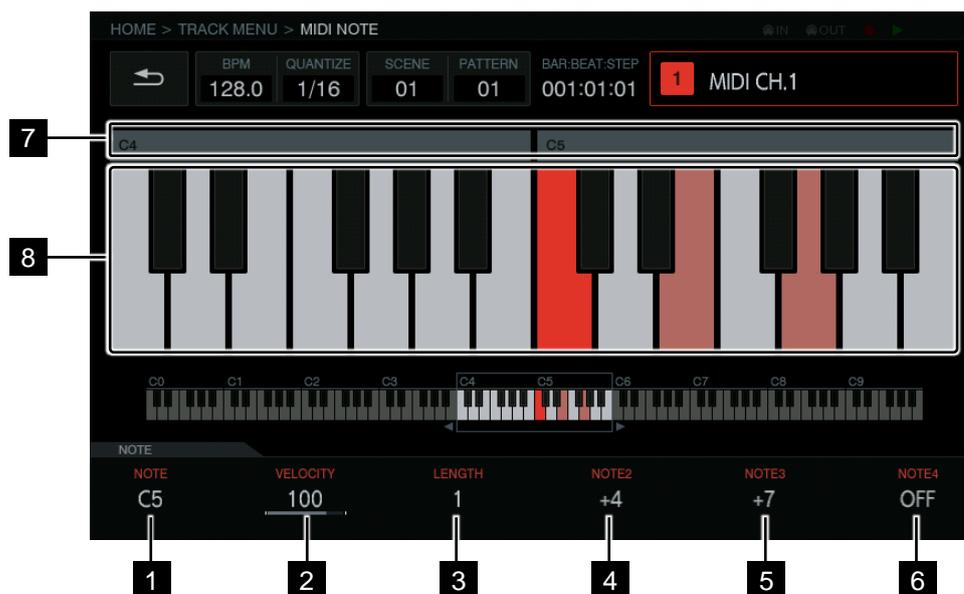
...

TRACK16 : CH.16

2.3. MIDI NOTE 設定 (MIDI NOTE、SEQUENCE)

MIDIトラックのパッドを押す、またはシーケンスでトリガーされた時に送信するMIDIノートを設定します。MIDIノートは基準ノートに加えてハーモニーを設定することで、最大4つまでのノートをトリガーすることができます。MIDIノートのトリガーはサンプルトラックと同様に、ステップシーケンサーに入力したり、パッド演奏をダイナミックレコーディングしたりすることができます。

- MIDIトラックでは、SLICEモードは使用できません。



1 NOTE

ノートナンバーを変更します。範囲はC0からB9です。

2 VELOCITY

ベロシティーを変更します。範囲はOFF、1から127です。

3 LENGTH

レンジスを変更します。範囲は0.25STEPから64STEPです。

4 NOTE2

NOTEで設定したノートナンバーを基準にした和音のノートを変更します。範囲は-127～OFF～+127です。

5 NOTE3

NOTEで設定したノートナンバーを基準にした和音のノートを変更します。範囲は-127～OFF～+127です。

6 NOTE4

NOTEで設定したノートナンバーを基準にした和音のノートを変更します。範囲は-127～OFF～+127です。

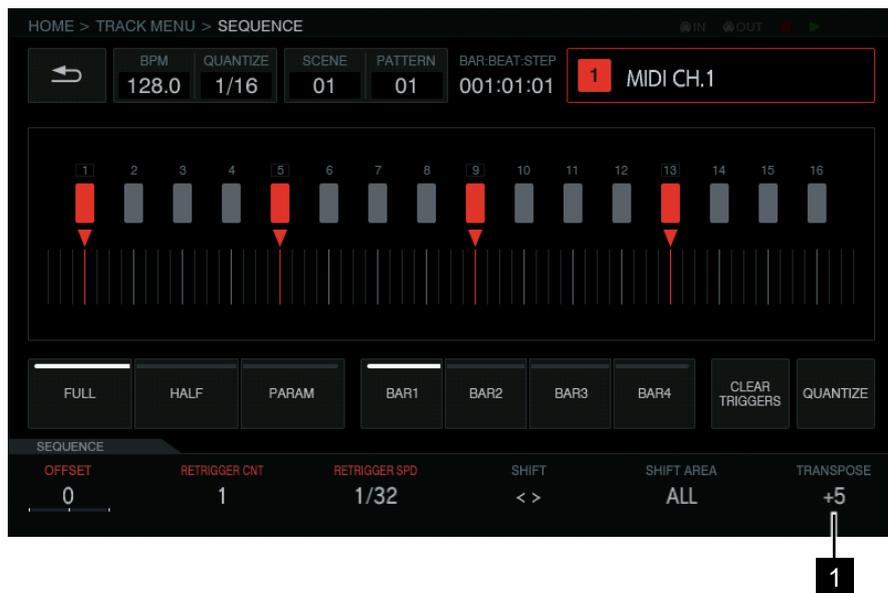
7 オクターブ番号表示

オクターブ番号を表示します。C0 から C9 までを表示します。

8 鍵盤表示

NOTE で設定したノートトラックカラーで表示します。NOTE2、NOTE3、NOTE4 で設定したノートは薄いトラックカラーで表示します。

また、HOME > TRACK MENU > SEQUENCE 画面の TRANSPOSE 機能を使うと、MIDI トラックから出力されるノート全体を半音階単位でシフトすることができます。TRANSPOSE は SEQUENCE 画面でパラメーター6 調整ツマミを回して変更します。



1 TRANSPOSE

トランスポーズ値を変更します。範囲は-24 から+24 です。

2.4. MIDI CC 設定 (MIDI CC1/CC2)

MIDIトラックのパッドを押す、またはシーケンスでトリガーされた時に送信する MIDI コントロールチェンジを設定します。



1 CC 番号選択ボタン

PARAMETER1 から PARAMETER6 のコントロールチェンジ番号を変更します。

- CC1 設定画面の PARAMETER1(Pitch Bend)および PARAMETER2(After Touch)は変更できません。

2 ACTIVE ボタン

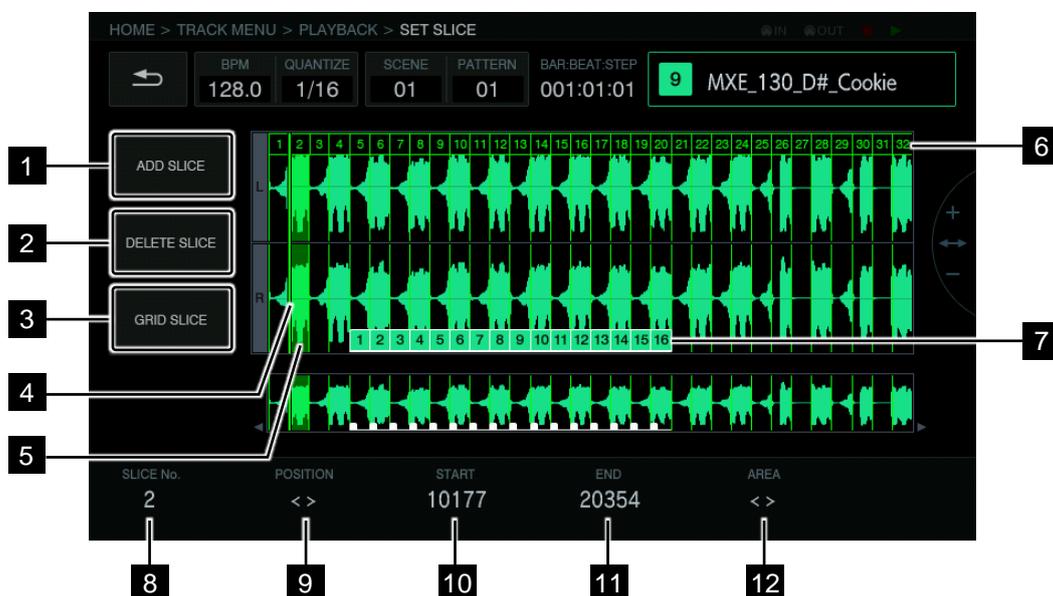
PARAMETER1 から PARAMETER6 のアクティブ、非アクティブを切り替えます。

3 CC 値

PARAMETER1 から PARAMETER6 のコントロールチェンジ値を変更します。

3. SLICE (SET SLICE)

SLICE モードで演奏するときの詳細な設定が可能になりました。スライスの追加や削除、指定数での等分割、各スライスのサイズ変更やパフォーマンスパッドへアサインするスライスの範囲を設定できます。



1 ADD SLICE ボタン

新規スライスを追加します。

2 DELETE SLICE ボタン

選択されているスライスを削除します。

3 GRID SLICE ボタン

全体を指定した数のスライスに等分割するためのポップアップを表示します。

4 POSITION 表示カーソル

POSITION で選択した位置が緑色のカーソルで表示されます。

5 選択スライス表示

選択しているスライス上に緑色の透過色で表示されます。

6 SLICE マーカー

各スライスに番号が振られて表示されます。

7 PAD マーカー

パフォーマンスパッドにアサインされているスライス上にパッドカラーで表示されます。

8 SLICE No.

スライスを選択します。

9 POSITION

選択位置を移動します。

10 START

選択中のスライスの開始位置を設定します。

11 END

選択中のスライスの終了位置を設定します。

12 AREA

パフォーマンスパッドにアサインするスライスの範囲を設定します。

3.1. SET SLICE 画面を開く

PLAYBACK 画面で[SET SLICE]ボタンをタップすると SET SLICE 画面に遷移します。

3.2. スライスの追加

[ADD SLICE]ボタンをタップして新規スライスを追加します。スライスには POSITION 表示カーソルをスライス開始位置として追加されます。スライスが追加されると先頭から順番に SLICE マーカーの番号が振りなおされます。スライスが最大数（64）である場合[ADD SLICE]ボタンはグレースアウトされ、新規スライスを追加することはできません。

3.3. スライスの削除

[DELETE SLICE]ボタンをタップして選択しているスライスを削除します。先頭のスライスを選択している、またはスライスが 1 つしか無い場合[DELETE SLICE]ボタンはグレースアウトされ、スライスを削除することはできません。

3.4. サンプルの指定数等分割

[GRID SLICE]ボタンをタップするとポップアップが現れます。ロータリーセレクターを回して分割数を指定し[OK]ボタンをタップすると、指定した分割数でサンプルが等分割されます。分割されたスライスは先頭から順番に番号が振られ、スライスマーカーに表示されます。

3.5. スライスの選択および位置の設定

各種操作を行うためスライスの選択や位置の設定をします。

スライスの選択

パラメーター1 調整ツマミを回してスライスを選択します。スライスマーカーに振られた番号が SLICE No. に表示されます。選択されているスライスは緑色の透過色で表示されています。

位置の設定

パラメーター2 調整ツマミを回して POSITION 表示カーソルを移動します。このとき POSITION 表示カーソルがあるスライスには緑色の透過色で表示され、SLICE No.に番号が表示されます。

3.6. スライスの調整

開始位置の調整

パラメーター3 調整ツマミを回して選択しているスライスの開始位置を調整します。先頭のスライスでは調整できません。

終了位置の調整

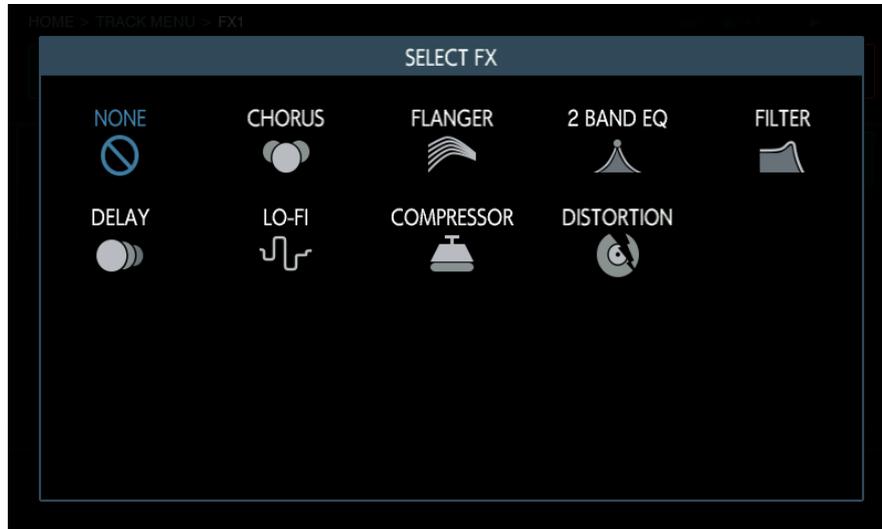
パラメーター4 調整ツマミを回して選択しているスライスの終了位置を調整します。後尾のスライスでは調整できません。

3.7. スライスのパフォーマンスパッドへのアサイン

パラメーター5 調整ツマミを回してパフォーマンスパッドへ割り当てるスライス範囲を指定します。パフォーマンスパッドに割り当てられているスライスは、トラックカラーと同じ色の 16 個の PAD マーカーで表示されます。PAD マーカーは連続した 16 個までのスライスを指定できます。

4. 新規インサートエフェクト (FX1)

インサートエフェクトに DELAY、LO-FI、COMPRESSOR と DISTORTION の 4 種類が追加されました。また、MULTI MODE FILTER を機能拡張しました。



4.1. MULTI MODE FILTER



1 TYPE ボタン

フィルタータイプを選択します。フィルタータイプは HPF、LPF、BPF の 3 種類から選択できます。

2 SLOPE ボタン

フィルターの遮断特性を選択します。12dB/Oct または 24dB/Oct のどちらかを選択できます。

3 CUT OFF

フィルターのカットオフ周波数を変更します。カットオフ周波数の範囲は 20Hz から 20000Hz です。

4 GAIN

フィルターのゲインを変更します。ゲインの範囲は-30dB から 15dB です。

5 RESONANCE

フィルターのレゾナンスを変更します。レゾナンスの範囲は 0.2 から 10 です。

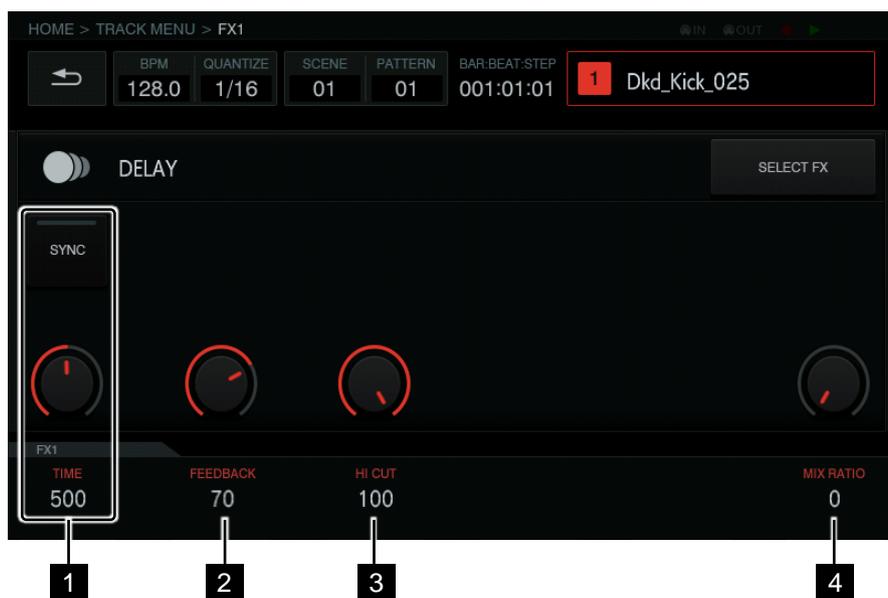
6 GLIDE

CUT OFF で設定した周波数に到達するまでの時間の滑らかさを変更します。GLIDE の範囲は 0 から 100 です。ステップモジュレーション機能を使ってフィルターの CUT OFF が変化する際に効果があります。

7 MIX RATIO

原音とエフェクト音とのミックス比率を変更します。MIX RATIO の範囲は 0 から 100 です。

4.2. DELAY (INSERT)



1 TIME

ディレイタイムを設定します。

SYNC OFF 時 : 範囲は 10ms から 1000ms です。

SYNC ON 時 : 範囲は 1/8BEAT から 2/1BEAT です。

2 FEEDBACK

ディレイのフィードバック量を変更します。範囲は 0%から 100%です。

3 HI CUT

フィードバックのハイカット量を変更します。範囲は 0 から 100 です。

4 MIX RATIO

原音とエフェクト音とのミックス比率を変更します。範囲は 0%から 100%です。

4.3. LO-FI



1 FILTER TYPE ボタン

フィルタータイプを選択します。フィルタータイプは HPF、LPF、BPF、OFF の 4 種類から選択できます。

2 PRE/POST ボタン

FILTER TYPE で選択したフィルターを、PRE AMP～BIT DEPTH 処理の前段にかけるか後段にかけるかを選択できます。

3 PREAMP

アンプシミュレーターによるプリゲイン歪みの効果を変更します。範囲は 0dB から 42dB です。

4 REDUCTION

リサンプル時のサンプリング周波数を変更します。範囲は 44Hz から 44100Hz です。

5 BIT DEPTH

リサンプル時のビット数を変更します。1～16、24、OFF のから選択できます。

6 CUT OFF

フィルターのカットオフ周波数を変更します。範囲は 20Hz から 20000Hz です。

7 RESONANCE

フィルターのレゾナンスを変更します。範囲は 0.2 から 10 です。

8 MIX RATIO

原音とエフェクト音とのミックス比率を変更します。範囲は 0%から 100%です。

4.4. COMPRESSOR (INSERT)



1 RATIO

コンプレッサーの圧縮比を変更します。範囲は 1:1 から 30:1 です。

2 ATTACK

入力音レベルが THRESHOLD を超えてから圧縮効果が適用されるまでの時間を変更します。範囲は 0.05ms から 1000ms です。

3 RELEASE

入力音レベルが THRESHOLD を下回ってから圧縮効果が解除されるまでの時間を変更します。範囲は 10ms から 4000ms です。

4 THRESHOLD

圧縮を開始する入力音量の閾値を変更します。範囲は -52dB から 0dB です。

5 GAIN

メイクアップゲインの値を変更します。範囲は 0dB から 50dB です。

6 MIX RATIO

原音とエフェクト音とのミックス比率を変更します。範囲は 0%から 100%です。

7 PEAK/RMS ボタン

PEAK または RMS を選択します。入力に対し、PEAK は波形のレベルを基準とし、RMS は聴感上の音量を基準にして圧縮効果がかかります。

8 SOFT KNEE ボタン

SOFT KNEE の ON/OFF を選択します。ON にすると THRESHOLD 付近での音量変化が滑らかなります。

9 INPUT レベルメーター

COMPRESSOR への入力音レベルを表示します。メーター上には THRESHOLD マーカーが表示されます。

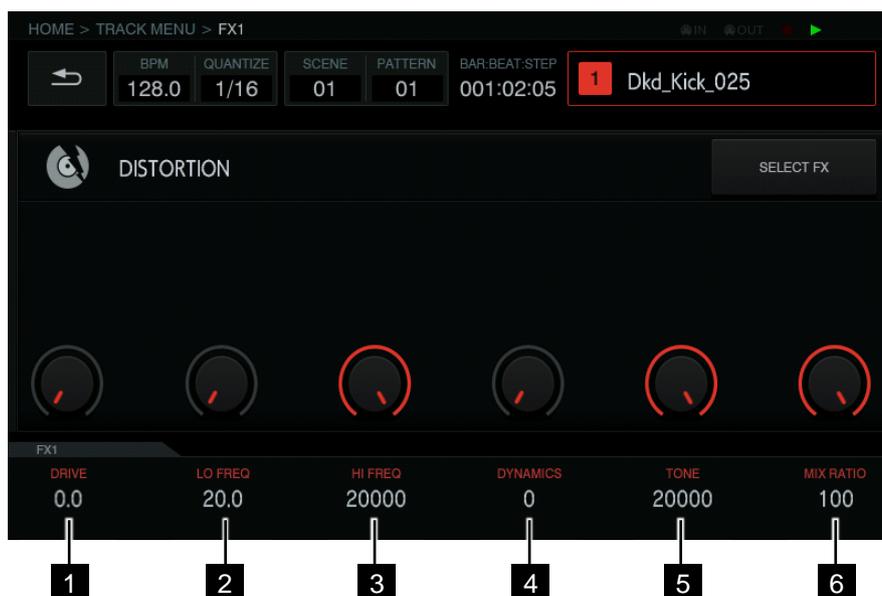
10 GAIN REDUCTION メーター

適用される GAIN REDUCTION 量を表示します。

11 OUTPUT レベルメーター

COMPRESSOR が適用された後の出力音を表示します。メーター上には GAIN マーカーが表示されます。

4.5. DISTORTION



1 DRIVE

DRIVE（歪み量）を変更します。範囲は 0dB から 40dB です。

2 LO FREQ

ローカットフィルターのカットオフ周波数を変更します。範囲は 20Hz から 20000Hz です。

3 HI FREQ

ハイカットフィルターのカットオフ周波数を変更します。範囲は 20Hz から 20000Hz です。

4 DYNAMICS

DYNAMICS（音量差の圧縮量）を変更します。範囲は 0 から 100 です。

5 TONE

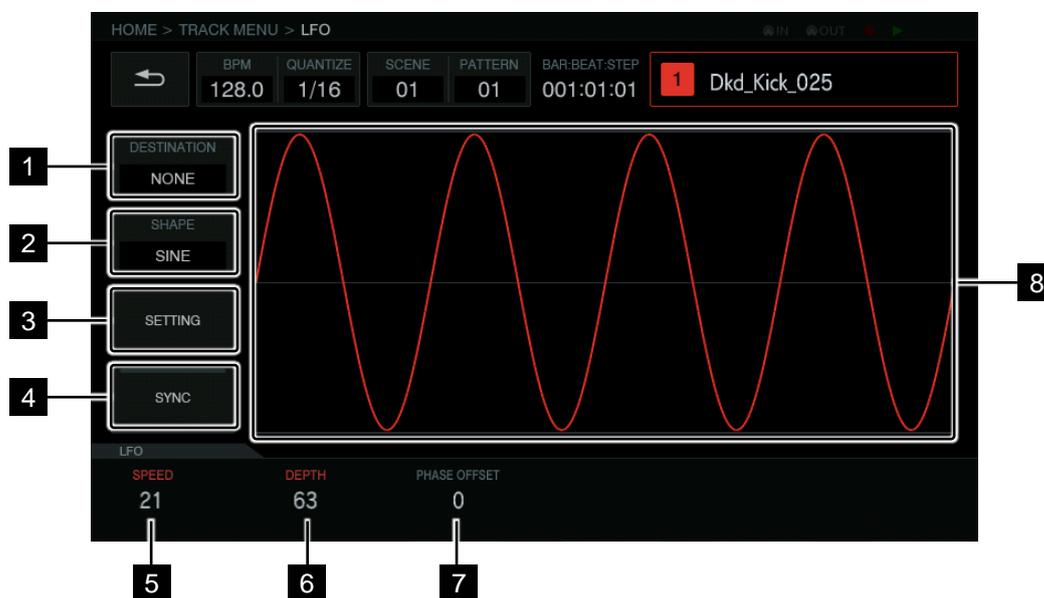
歪み音にかかるトーンコントロールフィルターのカットオフ周波数を変更します。範囲は 20Hz から 20000Hz です。

6 MIX RATIO

原音とエフェクト音とのミックス比率を変更します。MIX RATIO の範囲は 0% から 100% です。

5. LFO 設定 (LFO)

LFO (Low Frequency Oscillator : LFO) が追加されました。各トラックのパラメーターを LFO で揺らすことでモジュレーション効果を演出できます。



1 DESTINATION ボタン

LFO でモジュレーション効果をかけるパラメーターを選択します。

2 SHAPE ボタン

LFO の形状を選択します。

3 SETTING ボタン

LFO の詳細動作を設定します。

4 SYNC ボタン

SPEED パラメーターの STEP 連動 ON/OFF を選択します。

5 SPEED

LFO の周期を設定します。

6 DEPTH

LFO がパラメーターに与える適用量を設定します。

7 PHASE OFFSET

LFO の開始位相を設定します。

8 LFO 波形表示

SHAPE、DEPTH、PHASE OFFSET の設定値に応じた LFO の波形を表示します。

5.1. 対象パラメーターの選択

[DESTINATION]ボタンをタップして LFO でモジュレーションするパラメーターを選択します。パラメーターは1つのトラックにつき1つ選択出来ます。

カテゴリー名称	パラメーター名称	
PLAYBACK	PITCH	
	START	
	LOOP START	
	LENGTH	
AMP ENVELOPE	VELOCITY	
	ATTACK	
	HOLD	
	RELEASE	
FX1	2 BAND EQ B1 Q	
	2 BAND EQ B1 FREQUENCY	
	2 BAND EQ B1 GAIN	
	2 BAND EQ B2 Q	
	2 BAND EQ B2 FREQUENCY	
	2 BAND EQ B1 B2 GAIN	
	CHORUS RATE	
	CHORUS WIDTH	
	CHORUS PHASE	
	CHORUS DELAY	
	CHORUS MIX RATIO	
	COMPRESSOR RATIO	
	COMPRESSOR ATTACK	
	COMPRESSOR RELEASE	
	COMPRESSOR THRESHOLD	
	COMPRESSOR OUTPUT GAIN	
	COMPRESSOR MIX RATIO	
	DELAY TIME	
	DELAY FEEDBACK	
	DELAY HI CUT	
	DELAY MIX RATIO	
	DISTORTION DRIVE	
	DISTORTION LO FREQ	
	DISTORTION HI FREQ	
	DISTORTION DYNAMICS	
		DISTORTION TONE
		DISTORTION MIX RATIO
		FLANGER RATE
FLANGER WIDTH		
FLANGER PHASE		
FLANGER DELAY		
FLANGER FEEDBACK		
FLANGER MIX RATIO		
LO-FI PREAMP		
LO-FI REDUCTION		
LO-FI BIT DEPTH		
LO-FI CUTOFF		
LO-FI RESONANCE		
LO-FI MIX RATIO		
MULTI MODE FILTER CUTOFF		
MULTI MODE FILTER GAIN		
MULTI MODE FILTER RESONANCE		
MULTI MODE FILTER GLIDE		
MULTI MODE FILTER MIX RATIO		
MIDI NOTE	VELOCITY	
	LENGTH	
MIDI CC1	PARAMETER 1 PITCH BEND	
	PARAMETER 2 AFTER TOUCH	
	PARAMETER 3	
	PARAMETER 4	
	PARAMETER 5	
	PARAMETER 6	
MIDI CC2	PARAMETER 1	
	PARAMETER 2	
	PARAMETER 3	
	PARAMETER 4	
	PARAMETER 5	
	PARAMETER 6	

- 対象パラメーターを選択しても、そのパラメーターを含むエフェクトや MIDI トラックなどがアサインされていない場合は LFO の効果はかかりません。

5.2. LFO 形状の選択

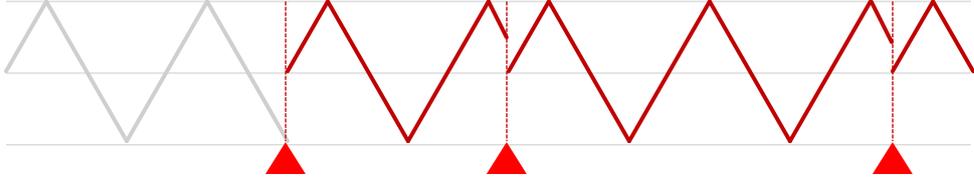
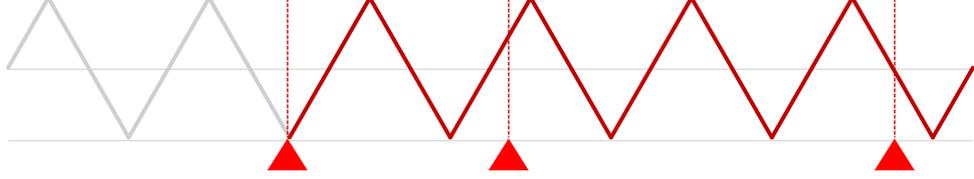
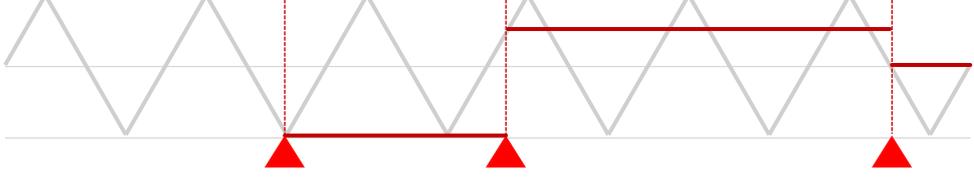
[SHAPE]ボタンをタップして LFO の形状を選択します。形状は SINE、TRIANGLE、SAW、SQUARE、PULSE25、PULSE12、RANDOM の 7 種類があります。選択した形状の波形が LFO 波形表示部に表示されます。RANDOM は別の形状から切り替える度に新しい RANDOM 形状が生成されます。

5.3. LFO の詳細動作設定

[SETTING]ボタンをタップすると詳細動作設定のポップアップが現れます。ここでは Mode と Trigger On の設定をします。

Mode

トリガーに対する LFO の動作を選択します。Mode は Trigger、Free、Sample & Hold の 3 種類があります。それぞれの選択で下記の通り動作します。

Mode	動作
Trigger	トリガーの度に LFO がリスタートします。 
Free	トリガーに関係なく常にバックグラウンドで発振します。 
Sample & Hold	常にバックグラウンドで発振するが、トリガー時の値を保持します。 

▲…トリガー —…適用されるパラメーター —…バックグラウンドで発振する LFO

Trigger On

Mode 設定において LFO のトリガーが動作するシーケンサーのトリガーの種類を選択します。

- Full : Full トリガーに対してのみ LFO のトリガーが動作します
- Full & Half : Full トリガーまたは Half トリガーに対して LFO のトリガーが動作します

5.4. LFO の各種パラメーター設定

パラメーター調整ツマミを回して SPEED、DEPTH、PHASE OFFSET 値を設定します。各パラメーターの説明と、設定範囲は以下の通りです。

SPEED

パラメーター1 調節ツマミを回して LFO の周期を設定します。設定範囲は[SYNC]ボタンの ON/OFF に応じて下記の通り変化します。

SYNC OFF 時 : 0 ~ 127

SYNC ON 時 : 1/2、1、2、3、4、8、12、16、32、48、64、128 (単位 : STEP)

DEPTH

パラメーター2 調節ツマミを回して DESTINATION で選択されたパラメーターに与える適用量を設定します。範囲は-64~0~63 です。DEPTH 値がマイナスの時は波形の上下が反転します。DEPTH 値に応じた波形が LFO 波形表示部に表示されます。

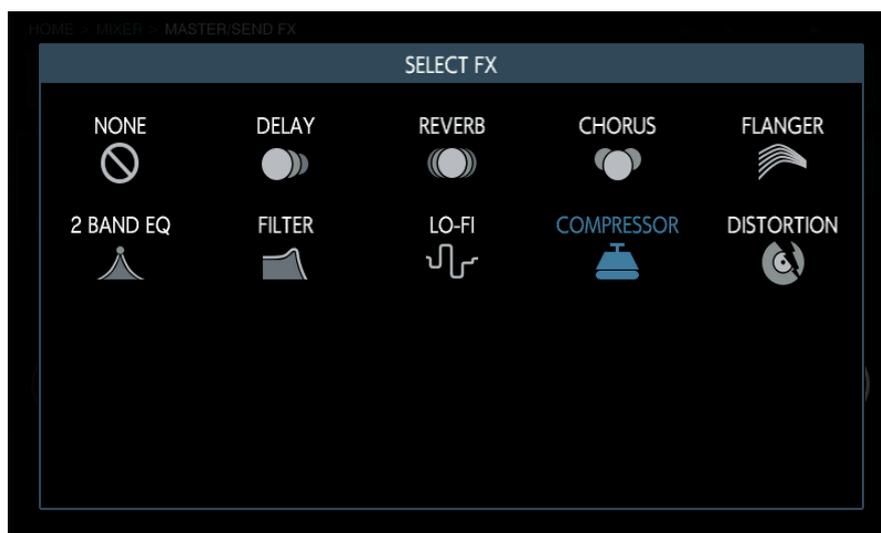
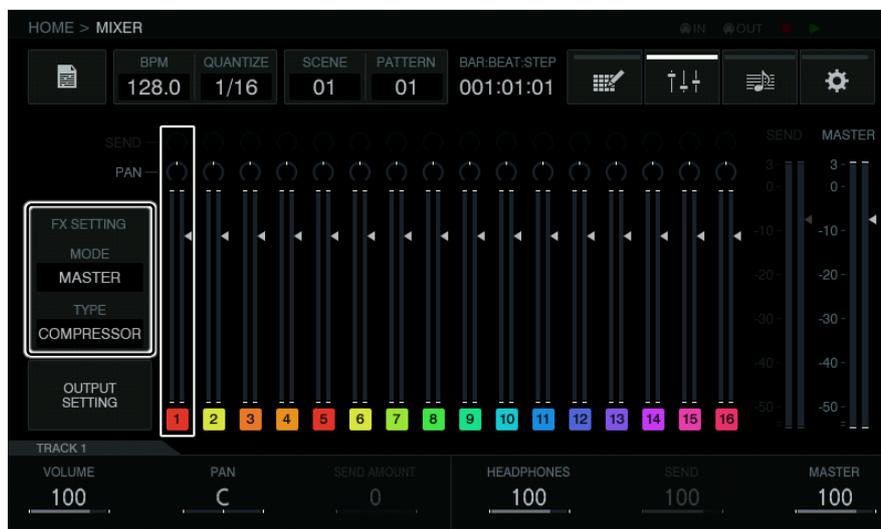
PHASE OFFSET

パラメーター3 調節ツマミを回して LFO の初期位相を設定します。範囲は 0%~99%です。99%でおおよそ 1 周期位相が遅れます。PHASE OFFSET 値に応じた波形が LFO 波形表示部に表示されます。

6. 新規マスター/SENDエフェクト (MASTER/SEND FX)

SENDエフェクトに加え、マスターエフェクトが追加されました。マスター/SENDエフェクトは1つのエフェクトをマスターまたはSENDのどちらかで使用出来ます。

また、全てのインサートエフェクトをマスター/SENDエフェクトでも選択できるようになりました。



6.1. COMPRESSOR (MASTER/SEND)

マスター/センドエフェクトで利用できる COMPRESSOR はインサートエフェクトの同エフェクトに対し、LOOK AHEAD の設定が追加されています。



1 MASTER/SEND 選択ボタン

エフェクトをマスターエフェクトとして使うかセンドエフェクトとして使うか選択します。

2 LOOK AHEAD ボタン

LOOK AHEAD の ON/OFF を選択します。ON にするとアタック解析部に先読みバッファを追加し、急に大きくなる音にもコンプレッション動作が反応できます。

7. オーディオレンダリング (RENDER AUDIO)

作成したパターンやアレンジメントを WAV ファイル (44.1kHz、24bit) で書き出す機能が追加されました。HOME 画面で[PROJECT]ボタンをタップし、PROJECT メニューから「RENDER AUDIO」を選択してください。レンダリング実行中は本機のシーケンサーや音声出力は停止します。



1 RENDERED TARGET ボタン

レンダリングの対象となる MIX や TRACK を選択します。

2 RENDER MODE ボタン

レンダリングのモードを選択します。

3 REMAINDER ボタン

レンダリングする WAV ファイルの残響処理方法を選択します。

4 DESTINATION ボタン

レンダリングする WAV ファイルの保存先を選択します。

5 RENDER ボタン

レンダリングを開始します。

7.1. レンダリング対象の選択

[RENDERED TARGET]ボタンをタップしてレンダリングの対象を選択します。[RENDERED TARGET]ボタンはそれぞれ ON/OFF でき、最大で 20 対象のレンダリングが可能です。レンダリング対象は以下の通りです。

MIX : OUT1-2 / MASTER、OUT3-4、OUT5-6、OUT7-8

INDIVIDUAL TRACKS : TRACK 1 ~ TRACK 16

7.2. レンダリングモードの選択

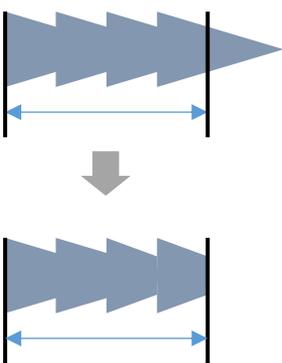
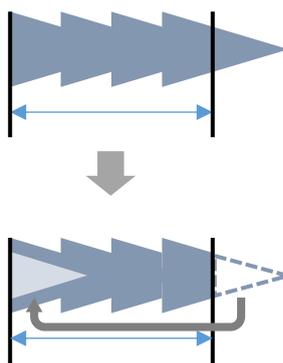
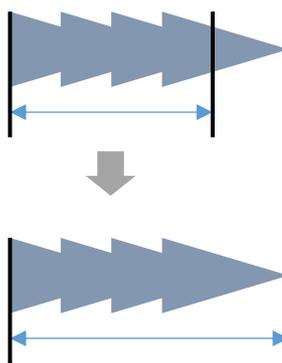
[RENDER MODE]ボタンをタップして PATTERN または ARRANGEMENT のどちらかを選択します。それぞれの選択で下記の通り動作します。

PATTERN : 現在のパターンが出力されます

ARRANGEMENT : ARRANGER 画面で作成したアレンジメントが出力されます

7.3. 残響処理方法の選択

[REMAINDER]ボタンをタップして際書き出されたサンプルの最後の部分（リバーブなどの残響音）の処理方法を選択します。それぞれの選択で下記の通り動作します。

処理方法	CUT	WRAP	LEAVE
説明	パターン長でレンダリングします。残響音はカットされます。	残響音を先頭に重ねてレンダリングします。	残響音を残してレンダリングします。
波形イメージ			

- レンダリングモードの選択で ARRANGEMENT が選択されているときは自動的に LEAVE 処理となります。CUT と WRAP は選択出来ません。

7.4. 保存先の選択

[DESTINATION]ボタンをタップして WAV ファイルの保存先を選択します。それぞれの選択で下記の通り動作します。

INTERNAL MEM : 本機に内蔵されているフラッシュメモリーに保存されます。

EXTERNAL MEM : USB メモリーに保存されます（USB メモリーが挿入されていない場合は表示されません）

- WAV ファイルの保存先は、RENDER MODE が
PATTERN の場合 : /PIONEER DJ SAMPLER/RenderedAudio/[プロジェクト名]/Pattern

ARRANGEMENT の場合 : /PIONEER DJ SAMPLER /RenderedAudio/[プロジェクト名]/Arrangement
配下になります。

- ファイル名は、RENDER MODE が
PATTERN の場合 : [シーン番号][パターン番号]_[レンダリング対象名].wav
ARRANGEMENT の場合 : [レンダリング対象名].wav
となります。

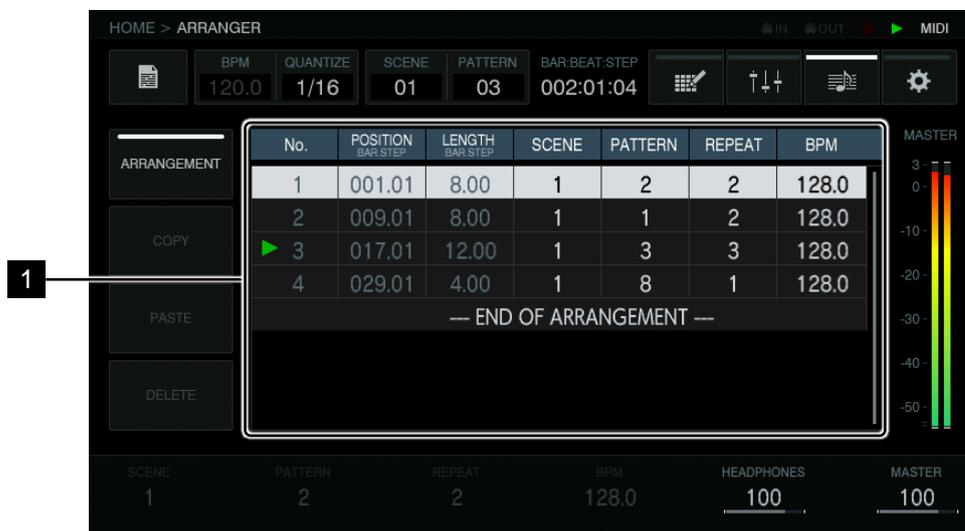
7.5. オーディオレンダリングの実行

[RENDER]ボタンをタップしてレンダリングを開始します。オーディオレンダリング中はポップアップにプログレスバーで進行度が表示されます。オーディオレンダリングを途中で中止するには[CANCEL]ボタンをタップします。オーディオレンダリングが終了するとレンダリング成功のポップアップが表示され、[OK]ボタンをタップして終了します。メモリー容量不足や作成するファイルサイズの上限オーバー等で保存が出来ない場合は、保存に失敗したことを示すポップアップが表示されます。

- レンダリングされたオーディオファイルは、本機のサンプルブラウザ画面からはアクセスできません。コンピューターに取り込んで編集・マスタリング用にご使用ください。
- 同条件のレンダリング結果は常に上書きされます。レンダリングを行ったら必ずファイルをコンピューターに移動またはコピーするようにしてください。
- レンダリング機能はサンプルトラックにのみ有効です。
- レンダリング時、アナログフィルターの効果をかけることはできません。
- アレンジメントを保存する際、レンダリングできるファイルサイズは最大で 2GB です。

8. アレンジメント (ARRANGER)

ARRANGER 画面のアレンジメント表示領域により詳細な情報が表示されるようになりました。POSITION と LENGTH が追加されています。



1 アレンジメント表示領域

アレンジメントの各種情報を表示します。

No. : アレンジメントの列番号が表示されます。

POSITION : アレンジメントの先頭からの位置 (BAR.STEP 表示) が表示されます。

LENGTH : 選択したパターンのパターン長 (BAR.STEP 表示) が表示されます。

SCENE : シーンの番号が表示されます。

PATTERN : パターンの番号が表示されます。

BPM : 個別に設定可能な BPM 値が表示されます。

9. その他

- UTILITY に PAD/BUTTON BRIGHTNESS 設定を追加しました。パフォーマンスパッドやステップシーケンサーなどの点灯時の明るさを調整できます。
- PRO DJ LINK を使って DJ 機器との SYNC と MIDI OUT を使って外部 MIDI 機器との SYNC が同時に使えるようになりました。DJ システムと電子楽器の SYNC ハブとして本機を活用できるようになります。
- PRO DJ LINK 機能「MASTER PLAYER SELECT (AUTO)」に対応可能な DJ プレーヤーが増えました。下記の DJ プレーヤー対応表でご確認ください。

DJ プレーヤー対応表

2017.11.21 現在

MODEL	対応状況	
	MASTER PLAYER SELECT(AUTO)	MASTER PLAYER SELECT(MANUAL)
CDJ-2000NXS2	ファームウェア Ver.1.51 にて対応	対応
CDJ-TOUR1	ファームウェア Ver.1.21 にて対応	対応
XDJ-1000MK2	ファームウェア Ver.1.10 にて対応	対応
XDJ-1000	ファームウェア Ver.1.10 にて対応	対応
XDJ-700	ファームウェア Ver.1.10 にて対応	対応
CDJ-2000NXS	ファームウェア Ver.1.40 にて対応	対応
CDJ-900NXS	ファームウェア Ver.1.30 にて対応	対応
CDJ-2000	非対応	対応
CDJ-900	非対応	対応

最新のファームウェアはこちらよりダウンロードしてください。

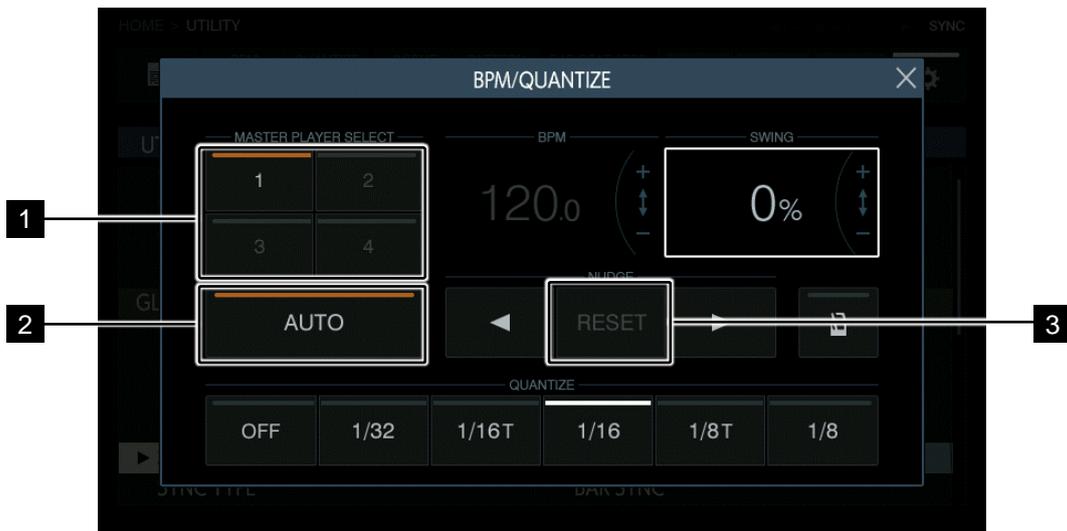
<http://www.pioneerdj.com/ja-jp/support/software/>

- ・ MASTER PLAYER SELECT (AUTO)が有効になるためには PRO DJ LINK 接続された DJ プレーヤーが全て対応機種・対応ファームウェアである必要があります。

ファームウェア Ver.1.10

1. PRO DJ LINK (BPM/QUANTIZE, UTILITY)

PRO DJ LINK を使った DJ プレーヤーとの SYNC 機能が追加されました。本機と対応 DJ プレーヤーを LAN ケーブルで接続すると DJ プレーヤーの再生テンポ、ビート、小節に合わせて本機のシーケンスを再生することができます。



1 MASTER PLAYER SELECT ボタン

MASTER となる DJ プレーヤーを選択します。ボタン番号と DJ プレーヤーのナンバーが対応します。

- DJ プレーヤーが正しく接続されている場合はその番号が白色に点灯し、未接続の番号はグレーアウトします。
- ボタンをタップすると選択したボタン上部のインジケーターが白色に点灯します。
- AUTO ボタンが有効な場合、選択されている DJ プレーヤーに対応するボタン上部のインジケーターはアンバー色に点灯します。
- ボタンは 1 から 4 のいずれか排他で選択できます。

2 AUTO ボタン

ON にすると MASTER となっている DJ プレーヤーが自動的に選択されます。

- AUTO ボタンが有効な場合、自動選択されている DJ プレーヤーに対応するボタンのインジケーターはアンバー色に点灯します。

3 RESET ボタン

DJ プレーヤーから受信したグリッドに本機のシーケンスをスナップします。

- ナッジの操作等で DJ プレーヤーのビートグリッドと本機のシーケンスがずれている時にボタンが白色で表示され、タップするとオングリッドとなりボタンはグレーアウトします。

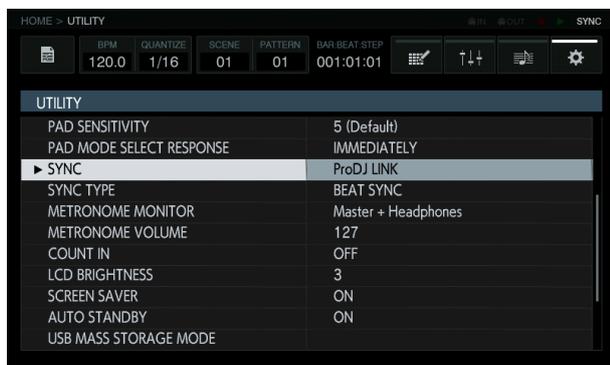
1.1. PRO DJ LINK によるシーケンスのシンク

1. ユーティリティを設定する

ユーティリティ画面で下記項目を設定します。

SYNC : PRO DJ LINK

SYNC TYPE : BPM SYNC, BEAT SYNC, BAR SYNC より選択



2. マスタープレーヤーを選択する

ホーム画面で[BPM/QUANTIZE]を押して BPM/QUANTIZE ポップアップを表示します。[MASTER PLAYER SELECT]ボタンを押してシンクをする DJ プレーヤーを選択します。または、[AUTO]ボタンを押して自動的にマスタープレーヤーを選択します。



3. シーケンスを再生する

[▶]ボタンを押してシーケンスを再生します。マスタープレーヤーとなっている DJ プレーヤーのテンポを変化させると、本機のシーケンスがシンク再生されます。

1.2. PRO DJ LINK 設定

PRO DJ LINK の設定はユーティリティ画面で行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
SYNC TYPE	BPM SYNC, BEAT SYNC, BAR SYNC

- BPM SYNC : マスターとなる DJ プレーヤーと BPM で同期します。
- BEAT SYNC : マスターとなる DJ プレーヤーと拍単位で同期します。
- BAR SYNC : マスターとなる DJ プレーヤーと小節単位で同期します。

2. プロジェクト関連機能 (PROJECT)

プロジェクト画面で操作する項目に、プロジェクトのパッケージ保存機能と、シーンのコピー機能が追加されました。プロジェクトのパッケージ化（プロジェクトファイルとそのプロジェクトで使用している音源ファイルを一つのファイルにすること）によるユーザー間でのプロジェクトの授受や、プロジェクトを跨いだシーンのコピーが出来ます。

2.1. プロジェクトのパッケージ化

パッケージを保存する

1. プロジェクト画面で[SAVE AS PACKAGE]を選択する

パッケージ名入力ポップアップが表示されます。



2. パッケージ名を入力し[SAVE]または[SAVE TO USB]をタップする

パッケージ名.tpkg ファイルが/PIONEER DJ SAMPLER/Projects/ フォルダに保存されます。このファイルパスは内蔵フラッシュメモリー、USB デバイス共に同じです。

- 同名のパッケージファイルが既に存在する場合は上書き確認のポップアップが表示されます。



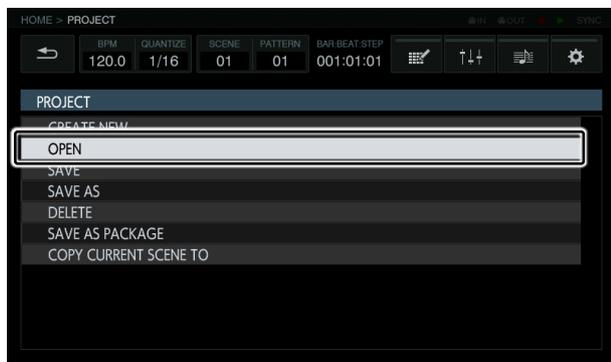
パッケージを読み込む

1. パッケージファイルをフォルダーに配置する

本機の内蔵フラッシュメモリー、またはUSBデバイスの/PIONEER DJ SAMPLER/Projects/ フォルダーにパッケージファイル（拡張子：.tpkg）をコピーしてください。

2. プロジェクト画面で[OPEN]を選択する

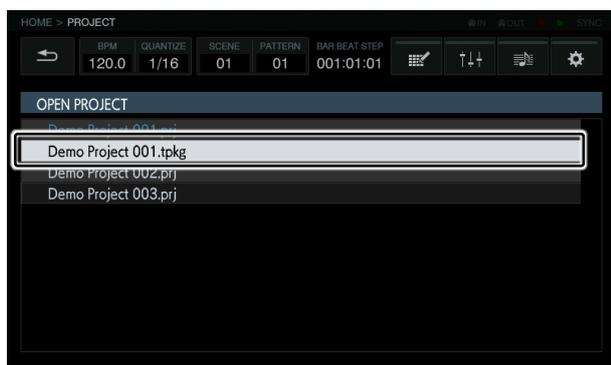
プロジェクトとパッケージのリストが表示されます。



3. 配置した.tpkg ファイルを開く

確認のポップアップが表示され、[OK]をタップするとパッケージが読み込まれます。

- 読み込んだパッケージをプロジェクトとして保存した場合、パッケージに含まれる音源ファイルは /PIONEER DJ SAMPLER/Samples/[Imported]/プロジェクト名/ フォルダーにコピーされます。

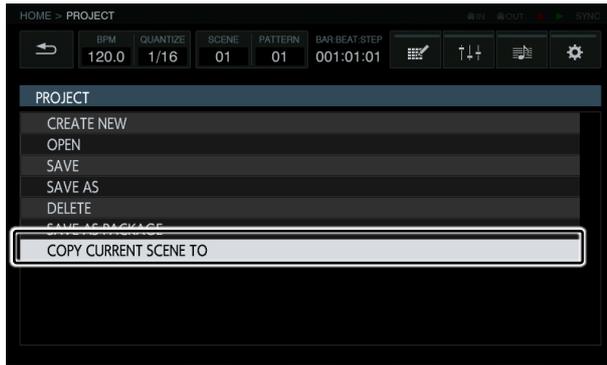


2.2. 他のプロジェクトへのカレントシーンのコピー

1. コピーしたいシーンを選択する

本機能ではカレントシーンを他のプロジェクトへコピーします。シーンの選択は[SCENE]ボタンやシーンマネージャーで行ってください。

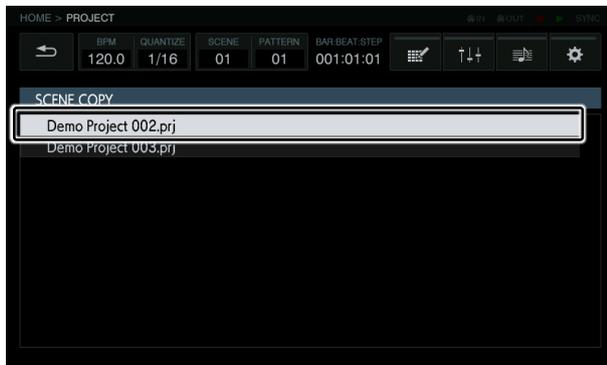
2. プロジェクト画面で[COPY CURRENT SCENE TO]を選択する



3. コピー先のプロジェクトを選択する

カレントシーンが選んだプロジェクトへコピーされ、コピー成功のポップアップが表示されます。

- コピー先のプロジェクトの、空いている最も若いシーン番号へコピーされます。
- コピー先のプロジェクトにシーンの空きエリアが無い場合は、WARNING メッセージが出てコピーが実行されません。



3. 新規インサートエフェクト (FX1)

インサートエフェクトに 2 BAND EQ と MULTI MODE FILTER の 2 種類が追加されました。

3.1. 2 BAND EQ



1 BAND TYPE ボタン

BAND1、BAND2 で使用するフィルタータイプを選択します。フィルタータイプは HPF、LPF、PEAK、HI-SHELF、LO-SHELF の 5 種類から選択できます。

2 Q

BAND1、BAND2 で選択されたフィルターの Q 値を変更します。Q 値の範囲は 0.1 から 10 です。

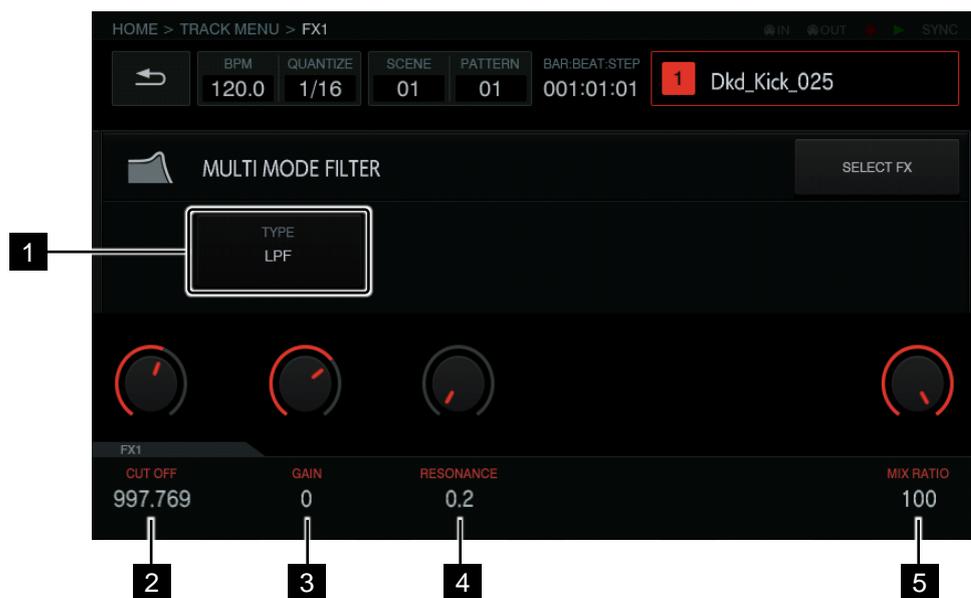
3 FREQUENCY

BAND1、BAND2 で選択されたフィルターの適用周波数帯域を変更します。周波数の範囲は 20Hz から 20000Hz です。

4 GAIN

BAND1、BAND2 で選択されたフィルターのゲインを変更します。ゲインの範囲は-30dB から 15dB です。

3.2. MULTI MODE FILTER



1 TYPE ボタン

フィルタータイプを選択します。フィルタータイプは HPF、LPF、BPF の 3 種類から選択できます。

2 CUT OFF

フィルターのカットオフ周波数を変更します。カットオフ周波数の範囲は 20Hz から 20000Hz です。

3 GAIN

フィルターのゲインを変更します。ゲインの範囲は-30dB から 15dB です。

4 RESONANCE

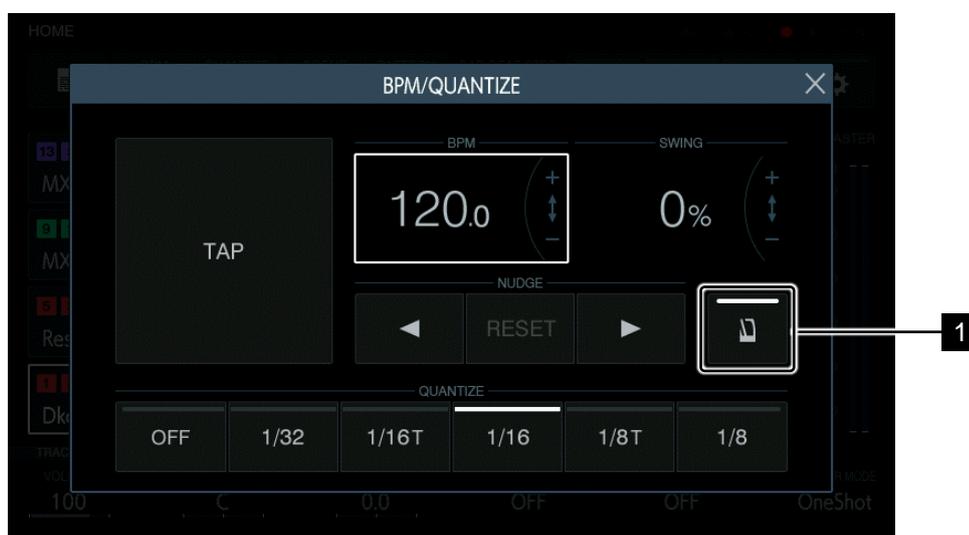
フィルターのレゾナンスを変更します。レゾナンスの範囲は 0.2 から 10 です。

5 MIX RATIO

原音とエフェクト音とのミックス比率を変更します。MIX RATIO の範囲は 0 から 100 です。

4. メトロノーム、カウントイン機能 (BPM/QUANTIZE, UTILITY)

メトロノーム機能とカウントイン機能が追加されました。



1 メトロノームボタン

メトロノーム機能の ON/OFF を切り替えます。

4.1. メトロノーム設定

[メトロノーム]ボタンを押してメトロノームを ON にします。メトロノームが ON のとき[メトロノーム]ボタン上部のインジケータが白で点灯します。シーケンス再生中にメトロノーム音が出力されます。メトロノームに関する各種設定はユーティリティー画面で行います。設定項目と設定値は下記のとおりです。

設定項目	設定値
METRONOME MONITOR	Master + Headphones, Headphones
METRONOME VOLUME	0 ~ 127

METRONOME MONITOR : メトロノーム音の出力先

METRONOME VOLUME : メトロノーム音量

4.2. カウントイン設定

カウントインが有効な時[▶]ボタンを押すと、カウントインの設定値分だけメトロノーム音を発音した後シーケンスの再生を開始します。ダイナミックレコーディングを行うときにこの設定を使うと便利です。

カウントインの設定はユーティリティー画面で行います。設定項目と設定値は下記の通りです。

設定項目	設定値
COUNT IN	OFF, 1 BAR, 2 BAR

5. ブラウズ関連機能 (BROWSE)

ブラウズ画面で操作する、プレビュー時の音声の出力先設定機能、出力音量設定機能、トラックに読み込まれているサンプルのアンロード機能が追加されました。



1 SETTING ボタン

ブラウズ時におけるプレビューの各種設定を行うポップアップを開きます。

2 UNLOAD ボタン

トラックに読み込まれているサンプルをアンロードします。

5.1. プレビュー設定

[SETTING]ボタンをタップして SETTING ポップアップを開きます。ロータリーセクターを回して設定項目を選択し、更に押す事で設定値を変更します。設定値を確定するにはロータリーセクターを再度押しします。設定項目と設定値は下記のとおりです。

設定項目	設定値
PREVIEW SETTING	Master + Headphones, Headphones
PREVIEW MONITOR	0 ~ 127

PREVIWE SETTING : サンプルプレビュー時の音声の出力先

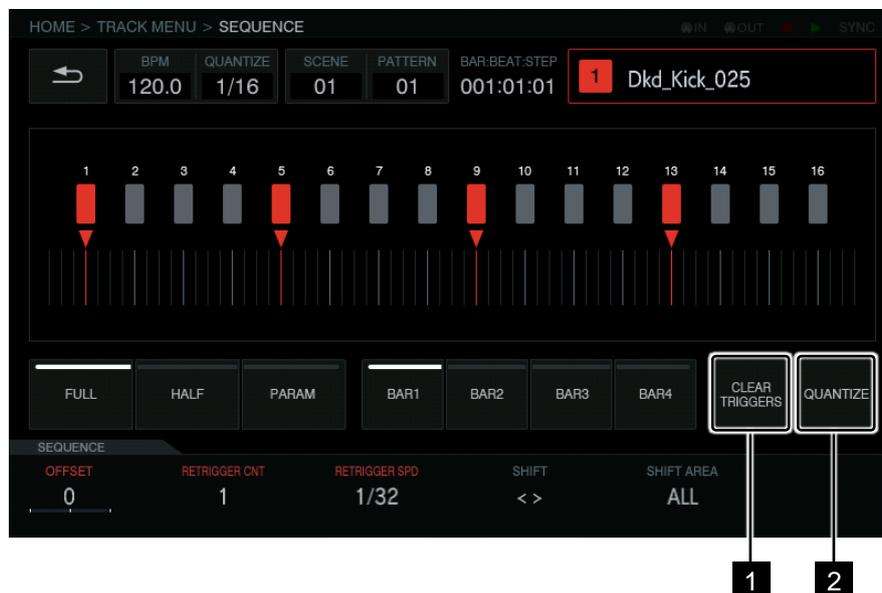
PREVIEW MONITOR : サンプルプレビュー時の出力音量

5.2. サンプルのアンロード

[UNLOAD]ボタンをタップしてトラックに読み込まれているサンプルをアンロードします。サンプルをアンロードすると、ブラウズ画面右上に表示されていたサンプル名称が消えます。

6. シーケンス編集機能 (SEQUENCE)

カレントトラックに対し、シーケンス画面で操作する、カレントパターンのトリガー一括消去機能、トリガーのクオンタイズ機能が追加されました。



1 CLEAR TRIGGERS ボタン

カレントパターンに打ち込まれているトリガーを全て消去します。

2 QUANTIZE ボタン

カレントパターンに打ち込まれているトリガーを 1/16 単位でスナップします。

6.1. トリガーの一括消去

[CLEAR TRIGGERS]ボタンをタップすると確認のポップアップが表示されます。[OK]をタップしてカレントパターンに打ち込まれているトリガーを全て消去します。[CANCEL]をタップすると消去はせずポップアップを閉じてシーケンス画面に戻ります。

6.2. クオンタイズ

[QUANTIZE]ボタンをタップして、ステップからずれて打ち込まれているトリガーを 1/16 単位で近傍のステップにクオンタイズします。ダイナミックレコーディング等で打ち込まれたトリガーをステップに揃えるときに利用できます。

7. タッチストリップ「PITCH」モード時のレンジ変更機能

タッチストリップの PITCH モードにレンジ変更機能が加わりました。レンジ変更はユーティリティー画面で行います。設定項目と設定値は下記のとおりです。

設定項目	設定値
TOUCH STRIP SETTING (PITCH RANGE)	2 Bipolar Semitones, 4 Bipolar Semitones, 12 Bipolar Semitones

- TIME STRETCH のモードや、PLAYBACK の PITCH の設定値により、PITCH の可動範囲を超える場合はそれ以上の PITCH 変化はできません。

取扱説明書 正誤表

記載事項に以下の通り誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

2019.10.3 現在

ページ	訂正箇所	誤	正
9	PATTERN	パターン長は最小 <u>8 ステップ</u> から最大 4 小節 (64 ステップ) まで 1 ステップ単位で設定することができます。	パターン長は最小 <u>4 ステップ</u> から最大 4 小節 (64 ステップ) まで 1 ステップ単位で設定することができます。
11	パターンを切替える	パターンが切り替わるタイミングは、 <u>設定されたクオンタイズ値</u> によります。	パターンが切り替わるタイミングは、 <u>UTILITY で設定された PATTERN QUANTIZE の設定値</u> に従います。
12	トラックをミュートする (MUTE モード)	ミュートしたトラックに対応するパフォーマンスパッドが <u>暗点灯</u> します。	ミュートしたトラックに対応するパフォーマンスパッドが <u>消灯</u> します。
12	音階演奏をする (SCALE モード)	4 [SCALE]ボタンを再度押す [SCALE]ボタンが消灯し、 <u>スライ</u> <u>ス演奏モード</u> が終了します。	4 [SCALE]ボタンを再度押す [SCALE]ボタンが消灯し、 <u>音階</u> <u>演奏モード</u> が終了します。
14	USER 設定で使う	タッチストリップに触れている状態からパフォーマンスパッドを押してもサンプル音がリピート演奏されます。	タッチストリップに触れている状態からパフォーマンスパッドを押してもパラメーターが変化します。
18	固定表示領域 SCENE/PATTERN ボタン	<u>BPM/QUANTIZE</u> ポップアップが開きます。	<u>SCENE MANAGER</u> ポップアップが開きます。
26	QUANTIZE ボタン 説明文	<u>ビートに合わせて複数回タップ</u> すると、その間隔に合わせて <u>BPM</u> <u>値</u> が設定されます。	シーケンサー再生中にパフォーマンスパッドを叩いたときのクオンタイズ値を設定できます。
32	外部入力音を録音する/音源を編集する 掲載画像	(ボタン表示名) <u>SAVE</u> <u>SELECTION</u>	(ボタン表示名) <u>SAVE</u> <u>CHANGES</u>

ページ	訂正箇所	誤	正
32	REC LENGTH の 説明文	OFF の場合、録音開始後 32 秒を 超えると自動的に録音が停止しま す。	OFF の場合、録音開始後 64 秒を 超えると自動的に録音が停止しま す。
32	REC LENGTH の 説明文	・ OFF/1 ~4 (BAR 単位)	・ OFF/1 ~8 (BAR 単位)
33	SAVE SELECTION	<u>SAVE SELECTION</u>	<u>SAVE CHANGES</u>
33	SAVE SELECTION	保存先は、 <u>TORAIZ/Samples/</u> 配下になりま す。	保存先は、 <u>PIONEER DJ SAMPLER/ Samples/Saved/[Project name]/</u> 配 下になります。
34	サンプル音源の再 生方式を設定する (PLAYBACK)	<u>TRIGGER MODE</u> が、 <u>[LOOP One Shot]</u> もしくは <u>[LOOP GATE]</u> のと き	<u>LOOP</u> が <u>[ON]</u> のとき
36	サンプル音源再生 時の音量変化を調 整する (AMP ENVELOPE) 掲載画像	(ボタン表示名) <u>PRESET</u>	PRESET ボタンはありません。画 面は開発中のものです。
36	サンプル音源再生 時の音量変化を調 整する (AMP ENVELOPE) 掲載画像	(ボタン表示名) <u>SET UP</u>	(ボタン表示名) <u>SETTING</u>
37	6 PRESET の説明	PRESET タップでリストを表示します。	2017/2/2 現在、PRESET 機能はあ りません。開発中の仕様が記載さ れたままとなっております。
37	7 SETUP	<u>SETUP</u>	<u>SETTING</u>
37	7 SETUP [Retrigger]	[Retrigger]:各種特殊トリガーに対 する AMP ENVELOPE の動作を設 定できます。	Retrigger の設定機能はありませ ん。

ページ	訂正箇所	誤	正
40	USB デバイスから音源を取り込む場合	USB デバイスを本機に挿入すると、自動的に[TORAIZ]フォルダー作成されます。この[TORAIZ]フォルダーの中の、[Samples]フォルダーに入れた音源のみ BROWSE 機能 (P.30) で読み込むことができます。	USB デバイスを本機に挿入すると、自動的に[PIONEER DJ SAMPLER]フォルダーが作成されます。この[PIONEER DJ SAMPLER]フォルダーの中の、[Samples]フォルダーに入れた音源のみ BROWSE 機能 (P.30) で読み込むことができます。

付録 1. MIDI インプリメンテーションチャート

本機が外部 MIDI 機器より MIDI メッセージを受けて動作する時の、機能と MIDI メッセージの対応を以下に説明します。

ノート

各トラックのサンプルをトリガーします。どの MIDI チャンネルであってもサンプルがトリガーされます。

機能	NOTE ナンバー	備考
TRACK1 トリガー	0	
TRACK2 トリガー	1	
TRACK3 トリガー	2	
TRACK4 トリガー	3	
TRACK5 トリガー	4	
TRACK6 トリガー	5	
TRACK7 トリガー	6	
TRACK8 トリガー	7	
TRACK9 トリガー	8	
TRACK10 トリガー	9	
TRACK11 トリガー	10	
TRACK12 トリガー	11	
TRACK13 トリガー	12	
TRACK14 トリガー	13	
TRACK15 トリガー	14	
TRACK16 トリガー	15	

UTILITY の CHANNEL MAPPING で設定した MIDI チャンネルに対応するトラックが PITCH を伴ってトリガーされます。トラックの TIME STRETCH 設定が M.TMP の場合 PITCH は±12 の範囲に制限されます。

機能	NOTE ナンバー	備考
サンプルトリガー (PITCH : -24)	24	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -23)	25	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -22)	26	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -21)	27	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -20)	28	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作

機能	NOTE ナンバー	備考
サンプルトリガー (PITCH : -19)	29	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -18)	30	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -17)	31	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -16)	32	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -15)	33	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -14)	34	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -13)	35	M.TMP の場合は PITCH : -12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : -12)	36	
サンプルトリガー (PITCH : -11)	37	
サンプルトリガー (PITCH : -10)	38	
サンプルトリガー (PITCH : -9)	39	
サンプルトリガー (PITCH : -8)	40	
サンプルトリガー (PITCH : -7)	41	
サンプルトリガー (PITCH : -6)	42	
サンプルトリガー (PITCH : -5)	43	
サンプルトリガー (PITCH : -4)	44	
サンプルトリガー (PITCH : -3)	45	
サンプルトリガー (PITCH : -2)	46	
サンプルトリガー (PITCH : -1)	47	
サンプルトリガー (PITCH : ±0)	48	サンプルを元のピッチで鳴らす
サンプルトリガー (PITCH : +1)	49	
サンプルトリガー (PITCH : +2)	50	
サンプルトリガー (PITCH : +3)	51	
サンプルトリガー (PITCH : +4)	52	
サンプルトリガー (PITCH : +5)	53	
サンプルトリガー (PITCH : +6)	54	
サンプルトリガー (PITCH : +7)	55	
サンプルトリガー (PITCH : +8)	56	
サンプルトリガー (PITCH : +9)	57	
サンプルトリガー (PITCH : +10)	58	
サンプルトリガー (PITCH : +11)	59	
サンプルトリガー (PITCH : +12)	60	
サンプルトリガー (PITCH : +13)	61	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作

機能	NOTE ナンバー	備考
サンプルトリガー (PITCH : +14)	62	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +15)	63	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +16)	64	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +17)	65	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +18)	66	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +19)	67	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +20)	68	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +21)	69	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +22)	70	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +23)	71	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作
サンプルトリガー (PITCH : +24)	72	M.TMP の場合は PITCH : +12 で動作

コントロールチェンジ

MIDI コントロールチェンジを外部 MIDI 機器より受信して、本機の各種機能进行操作します。

設定項目		CC ナンバー	備考
[TRACK]	VOLUME	7	
	PAN	10	
	TIME STRETCH	14	
	LOOP	15	
	TRIGGER MODE	16	
	SEND AMOUNT	17	
	MUTE	18	
[PLAYBACK]	PITCH	20	
	START	21	
	LOOP START	22	
	LENGTH	23	
[AMP ENVELOPE]	VELOCITY	26	
	ATTACK	27	
	HOLD	28	
	RELEASE	29	
[FX1]	Param1	46	
	Param2	47	
	Param3	48	
	Param4	49	
	Param5	50	
	Param6	51	

設定項目		CC ナンバー	備考
[FX2]	Param1	63	
	Param2	64	
	Param3	65	
	Param4	66	
	Param5	67	
	Param6	68	
[SEQUENCE]	OFFSET	54	
	RETRIGGER CNT	55	
	RETRIGGER SPD	56	
[LFO]	SPEED	60	
	DEPTH	61	
	PHASE OFFSET	62	

SCENE や PATTERN の切り替えをします。本機での動作と同様に、SCENE 切り替えは PATTERN を受信して確定となります。なお、SAMPLING/EDIT 画面を表示しているときは SCENE と PATTERN の切り替えは無効です。SCENE、PATTERN 切り替え中に受信したその他の MIDI メッセージは無視します。

機能	CC ナンバー	備考
SCENE 選択	0	CC 値 16 以上は SCENE16 として扱う
PATTERN 選択	32	CC 値 16 以上は PATTERN16 として扱う

ピッチベンド

UTILITY の CHANNEL MAPPING で設定した MIDI チャンネルに対応するトラックのサンプルがピッチベンドされます。タッチストリップの MODE が PITCH のときのみ有効です。

モードメッセージ

UTILITY の CHANNEL MAPPING で設定した MIDI チャンネルに対応するトラックでメッセージを受信します。モードメッセージでは ALL NOTE OFF に対応し、現在発音中の音を停止します。

付録 2. SHIFT キーを使った機能一覧

操作	状態	効果
[SHIFT] + PAD	PAD MODE が「MUTE」のとき	PAD を押したトラック以外全て MUTE / もう一度押すと全 MUTE 解除 (取扱説明書 P.12)
[SHIFT] + PAD	PAD MODE が「MUTE」以外 のとき	そのトラックのサンプル再生を停止
[SHIFT] + パラメーター調整ツマミ	PLAYBACK の PITCH~ LENGTH, SAMPLING/EDIT の START/END, FX1 の各種 パラメーター	パラメーターを細かく調整できる
[SHIFT] + ロータリーセレクトター	BROWSE	フォルダー単位でフォーカスが移動 (取扱説明書 P.31)
[SHIFT] + ロータリーセレクトター	PLAYBACK, SAMPLING/EDIT	波形を上下方向に拡大・縮小 (取扱説明書 P.34)
[SHIFT] + ロータリープッシュ	ARRANGER	ARRANGEMENT が ON のとき、 停止中 : カーソルが当たっている行から再生 再生中 : カーソルが当たっている行へ再生位置のジャンプを予約 (現在の行の再生が終わったらジャンプして再生)
[SHIFT] + [REC]	ダイナミックレコーディング を行った後	録音する前の状態に戻す